

授業コード	15N61		
授業科目名	<b>アジア史I (A)(前)</b>		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	「アラブ史概説」 イスラーム誕生以降のアラブ世界の歴史を概説する。		
到達目標	宗教思想としてのイスラームに関する基礎的な知識を得、様々な他者との接触を経て発展したアラブ世界の歴史展開を把握する。また現代の国際情勢に直結する問題でもある、アラブ世界の近代化の問題についても理解を深める。		
講義方法	プリントと板書を併用した講義形式。適宜、映像資料を用いる。 受講者の理解度を測るために、毎回出席を兼ねた小レポートを課する。		
準備学習	高校世界史の知識を前提にして講義を進めていくため、自信のない人は、高校時代の教科書で復習をしてから授業に望むように。		
成績評価	出席率を含めた平常点と、学期末テストの成績を総合して評価する。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アラブとイスラーム</li> <li>2. アラブ世界の広がり</li> <li>3. イスラームの始まり</li> <li>4. イスラーム世界の拡大と分裂</li> <li>5. ペルシア人とトルコ人</li> <li>6. 十字軍とは何か</li> <li>7. 十字軍時代の和平</li> <li>8. サラディンと十字軍</li> <li>9. モンゴルとアラブ</li> <li>10. マムルーク朝時代の国際関係</li> <li>11. オスマン帝国によるアラブ支配</li> <li>12. アラブ民族の形成と近代</li> <li>13. 現代アラブと国際情勢</li> <li>14. まとめ</li> </ol>		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	講義中に指示する。		

授業コード	15N62		
授業科目名	<b>アジア史I (B)(後)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「中国・江南地方における地域社会と市鎮」 ここで江南地方とは、長江下流の南岸、南京・上海・杭州の3都市を結んだ地域をいう。経済的、文化的に見て、江南は、過去1000年間、中国における最先進地域であったし、今でもありつづけている。本講義は、この江南地方について、19世紀を中心に17世紀から20世紀前半を念頭におきつつ、社会経済史の側面から考察する。このことを通して、現代にもつながる中国(さらには東アジアの)近世社会の構造的特徴を理解したい。		
到達目標	現在の国境にとらわれず、〈地域〉間の結びつきに焦点をあわせて東アジアの歴史的展開を説明できる。		
講義方法	講義形式による。		
準備学習	第1回目に講義全体にかかわる基礎的な参考文献を紹介するので、なるべく早い時期にそれらに目を通しておくこと。		
成績評価	原則として学期末試験による。		

講義構成	<p>第1回 はじめに 以下、講義は主として以下の3つの部分から構成される。</p> <p>(1)人口の変遷と江南の開発(第2～5回) この章では、マクロ人口の動向とそれをめぐる諸問題を、移民・開発・商業化という側面に注目して概観する。あわせて全国的な動向と江南地方のそれとを対比することにより江南の地域的特徴について考える。</p> <p>(2)都市化の進展と市鎮社会(第6～10回) ここでは明清時代を念頭におき、江南地方における商業化と都市化について概観し、あわせて市鎮(市場町)の発展とその機能をできるかぎり多面的に考察する。地域における中心地としての市鎮という観点から、江南地方の市鎮社会の成立、およびそこを舞台とする社会的諸事業の意義について考える。</p> <p>(3)江南地方と日本(第11～14回) ここでは王朝国家体制下における江南地方の位置づけについて述べるとともに、国家の枠をこえた東アジア地域の中での江南地方について考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>
教科書	用いない。
参考書・資料	講義中に随時紹介する。また、適宜プリントを配布する。

授業コード	15N71		
授業科目名	<b>アジア史II(A)(前)</b>		
担当者名	赤木崇敏(アカギ タカトシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	<p>テーマ:「アジアの歴史文化と世界遺産」</p> <p>現在、世界ではグローバリズムやボーダーレス化が唱えられる一方で、民族・宗教間の紛争・対立が各地で絶えず起こっています。この対立・差別を克服するためにも、現実の世界は一様ではないこと、各地には多種多様な文化や宗教、歴史が根ざしていることを学んでいく必要があります。</p> <p>本講義では、アジアの世界遺産のうち、中国とその周辺部に関わる文化遺産を採り上げて、その歴史的・文化的背景について考察します。ただの観光名所の案内解説ではなく、これら世界遺産という題材を通じて、アジアの諸文化の多様性やその歴史的背景について、各人が理解を深め思考することを目的とします。</p>
到達目標	<p>(1)北アジア～東アジア～中央アジアの歴史・文化に関する基礎知識を身につける。</p> <p>(2)世界遺産および遺産を取り巻く諸問題について理解を深める。</p>
講義方法	毎回プリントを配布し、板書を交えて講義する。また、適宜、パワーポイント・DVDなど映像資料も使用。
準備学習	過去プリントの復習。また、高校世界史教科書・資料集などで事項や地名を予習・復習するのがのぞましい。
成績評価	出席状況(小テスト30%)と、期末試験(70%)によって評価する。 小テストを1回も受験していなければ(＝全く出席していない場合)、成績評価しない。
講義構成	<p>以下のトピックスを中心に授業を進める予定である。</p> <p>(1)世界遺産概要 (2)「アジア」と「ヨーロッパ」のあいだ (3)アジアの地理と文化 (4)中国の仏教文化:峨眉山と樂山大仏～敦煌莫高窟 (5)東アジアの王朝文化:明・清朝の皇宮群～天壇・北京の皇帝の廟壇～古代高句麗王国の首都群と古墳群 (6)北アジアの文化:オルホン渓谷の文化的景観(モンゴル)～万里の長城 (7)チベットの文化:ラサのポタラ宮の歴史的遺跡群</p>
教科書	特に指定しないが、過去の配布プリントを毎回持参すること。
参考書・資料	講義中に随時紹介する。

授業コード	15N72		
授業科目名	<b>アジア史II(B)(後)</b>		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		
講義の内容	<p>「中世アラブの都市社会」</p> <p>古来より、ユーラシア大陸とアフリカ大陸、地中海とインド洋との結節点として、政治、経済、文化面で重要な位置を占めてきたエジプト。特に、12世紀のサラディン(サラフッディーン)によるアイユーブ朝の統治以降、首都のカイロはアラブ世界、イスラーム世界の中心都市として発展し、今日に至っている。</p> <p>この講義では、近年研究の進展が著しい中世のエジプト、特に13-15世紀のカイロに焦点を定め、当時の都市社会に暮らしたマムルーク(奴隷軍人)、ウラマー(知識人)、商人、民衆などの姿を描写する。</p>		
到達目標	マムルーク朝時代のカイロにおける様々な社会集団のあり方を理解し、中世アラブの都市社会の全体像を把握する。また日本、アジア、ヨーロッパなどの都市社会との比較から、当該地域の特殊性・共通性についても理解を深める。		
講義方法	プリントと板書を併用した講義形式。適宜、映像資料を用いる。 受講者の理解度を測るために、毎回出席を兼ねた小レポートを課する。		
準備学習	高校世界史の知識を前提にして講義を進めていくため、自信のない人は、高校時代の教科書で復習をしてから授業に望むように。		
成績評価	出席率を含めた平常点と、学期末テストの成績を総合して評価する。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. カイロの都市プランと建築</li> <li>3. マムルーク朝政治史概観</li> <li>4. 外来の支配エリートたち</li> <li>5. 越境する支配エリート</li> <li>6. イクター制度</li> <li>7. ワクフ制度</li> <li>8. イスラームの知とウラマー</li> <li>9. あるウラマーの生涯</li> <li>10. 交易ネットワークと大商人</li> <li>11. スーフィー・聖者・墓参り</li> <li>12. 中世アラブ民衆の世界</li> <li>13. マムルーク朝の終焉と遠い近代</li> <li>14. まとめ</li> </ol>		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	講義中に指示する。		

授業コード	15017		
授業科目名	<b>アジア史の諸問題(後・集中)</b>		
担当者名	蓮田隆志(ハスダ タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(水曜3限 集中講義)
講義の内容	<p>歴史とは単なる過去の事実の羅列やロマンの産物などではない。時と場合によっては、人々が命を賭けて血みどろの戦いを繰り広げる戦場となる。逆に領土紛争など現実の政治上・経済上の対立において、歴史が自己の立場を正当化する武器になることもある。「地域」を考える上で、歴史を踏まえなければ何も語ることはできないと言ってよい。</p> <p>この講義では東南アジアの歴史について、東南アジアだけでなくアジア全体を見渡す上で最低限の知識を獲得し、その後のより高度な学習・研究の基盤とすることを目標とする。講義レベルは主に1・2回生を想定したもののとなるが、他地域に興味を持つ学生も有効な比較の視座を得られるであろう。</p> <p>講義では現在との関係に強く配慮する。受講生は、現在と切り離された昔話や地名・年代の丸暗記と異なる、「学問」としての歴史学に触れることになるだろう。</p>		
到達目標	東南アジアの歴史が持つ特徴を、他者に説明できる程度の理解を獲得する。		
講義方法	日本の東南アジア史研究は世界でも屈指の水準を誇るが、その成果の中からある程度標準的な学説をもとに東南アジアの歴史を概観する。その際、(1)周辺他地域との関係(2)扱うトピックが近代以降の歴史学や政治の中でどのように理解されてきたのか、の二点に特に配慮して講義を組み立てる。		
準備学習	なじみの薄い地域なので、事前に地図帳などで地理感を養って欲しい。		

成績評価	記述式の試験を行う。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとウォーミングアップ</li> <li>2. 先史・古代の東南アジア</li> <li>3. 「古典期」の東南アジア</li> <li>4. 近世の東南アジア:「伝統」社会の誕生</li> <li>5. 植民地期の東南アジア</li> <li>6. ナショナリズムの時代</li> <li>7. 開発と国民国家形成</li> </ol>
教科書	使用しない。毎回教員がプリント配布する。なお、プリントの再配布は行わないので、欠席する場合は各自で確保すること。

授業コード	15024		
授業科目名	<b>アジア文化史(4単位)</b>		
担当者名	大石真一郎(オオイシ シンイチロウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)

講義の内容	中東のみならず東南アジア, 南アジア, 中央アジア, 北アフリカのほとんどの地域では, イスラームという宗教が社会・経済・文化に大きな影響を与えている。これらのイスラーム地域は, ヨーロッパや中華と並んで「世界史」を構成する重要な文明世界であり, その意味でイスラーム世界とも呼ばれる。本講義では, 宗教としてのイスラームについての理解を踏まえた上で, イスラームの出現から現代にいたるイスラーム世界の歴史と文化を概説する。		
到達目標	イスラーム史に関する基礎的な知識を身に付け、日本とも様々な分野で重要な関係を築きつつあるイスラーム社会への理解を深める。		
講義方法	配付プリントと板書を併用した講義形式。		
準備学習	講義の早い段階で、イスラームに関する基本的な文献を紹介するので、それらのいずれかを精読することが望ましい。		
成績評価	年度末試験を基準とする。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本とイスラーム</li> <li>2 研究入門</li> <li>3 イスラーム以前のオリエント</li> <li>4 イスラームの出現</li> <li>5 信仰と実践</li> <li>6 イスラーム世界の拡大</li> <li>7 テュルク人のイスラーム化</li> <li>8 シーア派の分派</li> <li>9 スーフィズム</li> <li>10 復古主義的改革運動</li> <li>11 近代主義的改革運動</li> <li>12 イスラームと現代</li> </ol>		
教科書	教科書は用いない。資料は適宜配布する。		

授業コード	15025		
授業科目名	<b>アジア文化史(2単位)(前)</b>		
担当者名	大石真一郎(オオイシ シンイチロウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	中東のみならず東南アジア, 南アジア, 中央アジア, 北アフリカのほとんどの地域では, イスラームという宗教が社会・経済・文化に大きな影響を与えている。これらのイスラーム地域は, ヨーロッパや中華と並んで「世界史」を構成する重要な文明世界であり, その意味でイスラーム世界とも呼ばれる。本講義では, イスラームの初期の歴		
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

	史を概説するとともに、この宗教を特徴付けているイスラーム法に関して詳細に解説する。
到達目標	イスラーム史に関する基礎的な知識を身に付け、日本とも様々な分野で重要な関係を築きつつあるイスラーム社会への理解を深める。
講義方法	配付プリントと板書を併用した講義形式。
準備学習	講義の初期の段階で、イスラームに関する基本的な文献を紹介するので、それらのなかから興味のあるものを選んで、精読することが望ましい。
成績評価	年度末試験を基準とする。
講義構成	1 日本とイスラーム 2 研究入門 3 イスラーム以前のオリエント 4 イスラームの出現 5 信仰と実践 6 イスラーム法 7 コーランとハディース 8 イスラーム法学の確立
教科書	教科書は用いない。

授業コード	15A01		
授業科目名	<b>演習I (4単位)(稲田)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「東アジアの歴史と文化」 中華文明が影響をあたえた範囲は広くほとんど全世界に及ぶが、とりわけ東アジア・東南アジア地域に著しい。現在、中国を含む東アジア・東南アジア地域は世界でもっとも活力にあふれた地域の一つであり、同時に混沌とした地域でもある。歴史的に日本とも深くかかわるこれらの地域の諸問題について関心のある学生諸君の参加を期待する。 この授業は演習形式で行われる。文献の検索方法から議論の仕方や報告の技法にいたるまで、「卒業研究」の作成に直結する準備をする場でもある。
到達目標	文献の探し方からプレゼンテーションまで、歴史研究の基礎的な力を身につける。
講義方法	参加者全員による演習形式とする。 (1)アジアにかんする文献を読み、討論する。今年度は「人口と家族」をテーマに史料の整理と関連文献を読む。 (2)参加者各自の興味にしたがって自分のテーマを決め、それについて調査し報告する。 (3)アジアにゆかりのある地や施設などを参観する。
準備学習	はじめに参考文献を紹介するので読んでくること。
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	前期 第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告  後期 第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告
教科書	使用しない。
参考書・資料	資料は配付する。参考文献は随時紹介する。

授業コード	15A02		
授業科目名	<b>演習I (4単位)(合田)</b>		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関するテーマ報告を通じて情報の収集と解析の仕方を学び、あわせてプレゼンテーション能力を培ってまいります。		
到達目標	卒業研究テーマの設定		
講義方法	前期は手頃な文献の紹介・書評を、後期はテーマ報告をしていただきます。		
準備学習	文献の読み込みとレジュメの作成		
成績評価	出席と報告内容で評価します。		
講義構成	毎時間、1名ないし2名が報告し、続いて質疑応答を行う。		
教科書	定めない。		

授業コード	15A03		
授業科目名	<b>演習I (4単位)(佐藤)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「日本古代史・中世史の研究」 各自が決めた研究テーマについて研究報告を行い、卒業論文の作成にむけて準備をします。 基本的な研究方法を習得するとともに、研究報告をもとに討論を行い、日本史についての知見を深め、討論の仕方を身につけることを目的とします。		
到達目標	調査・発表、討論、レポート作成の基本を身につける		
講義方法	毎回、担当者が研究報告を行い、それをもとに討論する。		
準備学習	研究報告の準備		
成績評価	平常点とレポート(前期・後期各1回)		
講義構成	1:ガイダンス 2:3回生の研究報告 3:2回生の研究報告		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		
講義関連事項	史料研究 I・古文書学など日本史の史料を扱う講義を並行して履修することが望ましい。		

授業コード	15A04		
授業科目名	<b>演習I (4単位)(出口)</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	民俗と地域文化をかかげるこのゼミでは、現場に立って感じたり、考えることを重視します。フットワーク軽く現場に出向き、土地の人との会話や観察、みずからの経験に知の表現をあたえられるよう、準備しましょう。 たとえば、祭りがテーマならば、競い合い、かっこよさ、美しさの共感、恥、見栄、愛着、そのための日常、人づきあい、鍛錬、克己・・・そんな観点からとります。 文献も読みますが、めざすは己のフィールドを自分のことば・体で語ること。 2年次3年次と反復して、独創性のある卒論作成につなげていきましょう。
到達目標	だれにもまねできない自分のテーマを見つけ、人前で語り、人に共感・啓蒙していけるようになること フィールド巡検の企画の率先 卒論テーマの策定
講義方法	自分がやりたいテーマを見つけよう そのテーマと格闘しよう 関連する文献を集めてみよう 集めた文献を読んでみよう それで満足した？面白かった？ 面白くないなら、満足しないなら、満足できるもの、面白いものにするにはどうすればいい？ 人に伝えるためのレジュメをつくろう 仲間の発表に関心をもち、質問しよう 皆でひとつのテーマにとりくんでみよう 分担討議もお任せします どう？卒論の骨格はできた？ 春と秋の巡検にいこう！
準備学習	やりたいテーマを見つけるため、自分の心にとことんむきあうこと、ゼミの仲間意識を育てること、なにがあってもゼミには顔をだすこと、人の発表を聞き逃したら心底悔しがること、ゼミの時間を適当に過ごさないこと、ゼミのことをいつも考えていること、その姿勢が準備学習です。
成績評価	出席が大原則です。そして、討議への参加、発表、レポートにより総合的に評価します。
講義構成	2年3年複式での授業です。 講義と実習、発表・討論で組み立てます。 前期1回、後期1回必ず口頭発表をしてもらいます。
教科書	使用しない
担当者から一言	ゼミは自分たちでつくりあげるところによさがあります。仲間のお世話や仕切ることも必要です。人のしていることに関心をもち、助けたり、刺激をうけたり、悔しがったり、一緒になってよりよいゼミにしていきましょう。

授業コード	15A05		
授業科目名	<b>演習I(4単位)(中辻)</b>		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	日本や海外に関する地理学的研究の基礎を学ぶことを目的とする。具体的にはまず、地理学の方法論に関する文献の購読を行う。次に、各自の関心によって文献購読を行い、地理学的な考え方や研究手法を学ぶとともに、卒業論文作成に向け、各自の関心をより具体化することを目指す。
到達目標	・ 地理学という学問分野についての基礎的な理解。 ・ 文献の探し方、読み方、レジュメの作り方、発表の仕方など、ゼミで必要となる技法を磨く。 ・ 地理学的研究で用いるさまざまな手法が使えるようになる。 ・ 各自の漠然とした問題意識を卒業論文の具体的なテーマに絞り込む。
講義方法	受講者全員による文献購読と討論、また各自の研究発表と討論を基本とします。
準備学習	日頃から図書館に通い、興味関心のある本を探して下さい。また、新聞を毎日読むよう訓練しましょう。
成績評価	授業への参加度と学期末に提出するレポートを中心に評価します。

講義構成	地理学に関する文献の全員での購読 調査テーマや調査地に関する文献収集の方法 各自の関心に基づく研究発表 野外調査と収集データの整理法 野外調査実習
教科書	特に指定しない。

授業コード	15A06		
授業科目名	<b>演習I (4単位)(中町)</b>		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	広く中東・イスラーム地域の歴史や文化に関する諸テーマを扱う。
到達目標	受講生それぞれにとって関心のあるテーマを扱った文献を輪読し、発表や討論を通じて、当該地域の歴史と文化についての具体的なイメージをつかむ。 また、神戸市近郊に存在する中東関係の様々な施設を見学し、身近にある異文化共存の問題について理解を深める。
講義方法	受講生による発表をメインとし、必要に応じて基本事項の解説を行う。 また中東関連施設の見学では、5-6名のグループを編成し、予備調査、調査準備、聞き取り、調査報告をグループ別に行う。
準備学習	受講生による発表では、具体的な文献の一つを選んでレビューするという形式を取ることがある。発表者以外の受講生にも文献のコピーをあらかじめ配布するので、必ず事前に目を通してから授業に望むこと。
成績評価	授業への参加度(平常点)と、学期末のレポートを総合して評価する。
講義構成	最初の1、2回はガイダンスとして、中東イスラーム地域に関する研究文献の調べ方、図書館レファレンスの利用の仕方を紹介する。 その後は受講生による発表および討論を行う。 課外見学については適宜、日程を調整しながら行いたい。
教科書	各回の発表担当者が指定する。

担当者から一言	希望者が集まれば、初学者向けのアラビア語勉強会を開催します。関心のある人、ゼミ生であるとないとを問わず、気軽に参加して下さい。
---------	-----------------------------------------------------------------

授業コード	15A07		
授業科目名	<b>演習I (4単位)(鳴海)</b>		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	この演習では、人文地理学の基礎的な考え方を学びながら、学生の希望するテーマについての知識を個々に深めていくことを目的とする。その過程では、文献の選び方やその講読、調べた課題の報告やそれに関する議論などを行い、卒業論文の作成に備える。
到達目標	選んだ研究課題の分析が行え、そのプレゼンができる。
講義方法	受講生全員による文献講読と討論、また担当者による報告を基本とする。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	出席を基本とし、課題への取り組みや報告も含めて総合的に判断する。

講義構成	①文献講読、②研究報告、③巡検
教科書	特に指定しない。

授業コード	15A08		
授業科目名	<b>演習I (4単位)(東谷)</b>		
担当者名	東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期:木曜日昼休み 佐藤研究室 後期:木曜日12:20～14:20東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	受講生が選択したテーマに関わる基本的な文献を読み解き、基礎的な知識を身につける事を目的とする。
到達目標	自身が選んだテーマに関わる文献をまとめ、前期末に5,000字、後期末に8,000字のレポートを作成すること。
講義方法	受講生による発表。
準備学習	テーマ選択に当たり、教員に相談すること。
成績評価	講義への参加度および学年末に提出するレポートによって評価する。
講義構成	受講生による発表を毎回行う。 必要に応じて学外見学に出かける。
教科書	講義中に指示する。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15A09		
授業科目名	<b>演習I (4単位)(横山)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	欧米近現代史の諸問題について、問題の所在を把握し、その理解を深めます。
到達目標	欧米近現代史についての基本的知識の獲得。
講義方法	最初に、共通のテキストを読み、欧米近現代史の研究において何が問題にされているのかについて把握し、その中で自分が関心をもつ分野を定めます。 次に、自分が焦点を定めた分野について、半期に少なくとも2回、通年で4回程報告します。
準備学習	指定教科書を予め通読しておくことが望ましい。
成績評価	出席、報告、議論への参加などを考慮した平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～5 欧米近現代史の諸問題についてのテキストの講読 6～14 個別発表 15. まとめ
教科書	E・H・カー『歴史とは何か』(岩波新書)、大下尚一他編『西洋の歴史[近現代編]』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。

担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。
---------	---------------------------

授業コード	15C01		
授業科目名	<b>演習I (2単位)(稲田)(前)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20~13:00 木曜日12:20~13:00		

講義の内容	<p>「東アジアの歴史と文化」  中華文明が影響をあたえた範囲は広くほとんど全世界に及ぶが、とりわけ東アジア・東南アジア地域に著しい。現在、中国を含む東アジア・東南アジア地域は世界でもっとも活力にあふれた地域の一つであり、同時に混沌とした地域でもある。歴史的に日本とも深くかかわるこれらの地域の諸問題について関心のある学生諸君の参加を期待する。  この授業は演習形式で行われる。文献の検索方法から議論の仕方や報告の技法にいたるまで、「卒業研究」の作成に直結する準備をする場でもある。</p>
到達目標	文献の探し方からプレゼンテーションまで、歴史研究の基礎的な力を身につける。
講義方法	<p>参加者全員による演習形式とする。  (1)アジアにかんする文献を読み、討論する。今年度は「人口と家族」をテーマに史料の整理と関連文献を読む。  (2)参加者各自の興味にしたがって自分のテーマを決め、それについて調査し報告する。  (3)アジアにゆかりのある地や施設などを参観する。</p>
準備学習	はじめに参考文献を紹介するので読んでくること。
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	<p>第1回 オリエンテーション  第2~10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート  第11~15回 各自が選んだ研究テーマの報告</p>
教科書	使用しない。
参考書・資料	資料は配付する。参考文献は随時紹介する。

授業コード	15C02		
授業科目名	<b>演習I (2単位)(合田)(前)</b>		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関するテーマ報告を通じて情報の収集と解析の仕方を学び、あわせてプレゼンテーション能力を培ってもらいます。
到達目標	卒業研究テーマの設定
講義方法	手頃な文献の紹介・書評、またはテーマ報告をしていただきます。
準備学習	文献の読み込みとレジュメの作成
成績評価	出席と報告内容で評価します。
講義構成	毎時間、1名ないし2名が報告し、続いて質疑応答を行う。
教科書	定めない。

授業コード	15C03		
授業科目名	<b>演習I(2単位)(佐藤)(前)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「日本古代史・中世史の研究」 各自が決めた研究テーマについて研究報告を行い、卒業論文の作成にむけて準備をします。 基本的な研究方法を習得するとともに、研究報告をもとに討論を行い、日本史についての知見を深め、討論の仕方を身につけることを目的とします。		
到達目標	調査・発表、討論、レポート作成の基本を身につける		
講義方法	毎回、担当者が研究報告を行い、それをもとに討論する。		
準備学習	研究報告の準備		
成績評価	平常点とレポート(前期・後期各1回)		
講義構成	1:ガイダンス 2:3回生の研究報告 3:2回生の研究報告		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		
講義関連事項	史料研究 I・古文書学など日本史の史料を扱う講義を並行して履修することが望ましい。		

授業コード	15C04		
授業科目名	<b>演習I(2単位)(出口)(前)</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	民俗と地域文化をかかげるこのゼミでは、現場に立って感じたり、考えることを重視します。フットワーク軽く現場に出向き、土地の人との会話や観察、みずからの経験に知の表現をあたえられるよう、準備しましょう。 たとえば、祭りがテーマならば、競い合い、かつこよさ、美しさの共感、恥、見栄、愛着、そのための日常、人づきあい、鍛錬、克己・・・そんな観点からとりくみます。 文献も読みますが、めざすは己のフィールドを自分のことば・体で語ること。 2年次3年次と反復して、独創性のある卒論作成につなげていきましょう。		
到達目標	だれにもまねできない自分のテーマを見つけ、人前で語り、人に共感・啓蒙していけるようになること フィールド巡検の企画の率先 卒論テーマの策定		
講義方法	自分がやりたいテーマを見つけよう そのテーマと格闘しよう 関連する文献を集めてみよう 集めた文献を読んでみよう それで満足した？面白かった？ 面白くないなら、満足しないなら、満足できるもの、面白いものにするにはどうすればいい？ 人に伝えるためのレジュメをつくろう 仲間の発表に関心をもち、質問しよう 皆でひとつのテーマにとりくんでみよう どう？フィールド研究の端緒はつかめた？ 春の巡検にいこう！		

準備学習	やりたいテーマを見つけるため、自分の心にとことんむきあうこと、ゼミの仲間意識を育てること、なにがあってもゼミには顔をだすこと、人の発表を聞き逃したら心底悔しがること、ゼミの時間を適当に過ぎさないこと、ゼミのことをいつも考えていること、その姿勢が準備学習です。
成績評価	出席が大原則です。そして、討議への参加、発表、レポートにより総合的に評価します。
講義構成	2年3年複式での授業です。 講義と実習、発表・討論で組み立てます。 前期1回必ず口頭発表をしてもらいます。
教科書	使用しない
担当者から一言	ゼミは自分たちでつくりあげるところによさがあります。仲間のお世話や仕切ることも必要です。人のしていることに関心を持ち、助けたり、刺激をうけたり、悔しがったり、一緒になってよりよいゼミにしていきたいと思います。

授業コード	15C05		
授業科目名	<b>演習I(2単位)(中辻)(前)</b>		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		

講義の内容	日本や海外に関する地理学的研究の基礎を学ぶことを目的とする。具体的にはまず、地理学の方法論に関する文献の購読を行う。次に、各自の関心によって文献購読を行い、地理学的な考え方や研究手法を学ぶとともに、卒業論文作成に向け、各自の関心をより具体化することを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理学という学問分野についての基礎的な理解。</li> <li>・ 文献の探し方、読み方、レジュメの作り方、発表の仕方など、ゼミで必要となる技法を磨く。</li> <li>・ 地理学的研究で用いるさまざまな手法が使えるようになる。</li> <li>・ 各自の漠然とした問題意識を卒業論文の具体的なテーマに絞り込む。</li> </ul>
講義方法	受講者全員による文献購読と各自の研究発表、発表に対する全体での討論を基本とします。
準備学習	日頃から書店や図書館に通い、興味関心のある本を探して下さい。また、新聞を毎日読むよう訓練しましょう。
成績評価	授業への参加度と学期末に提出するレポートを中心に評価します。
講義構成	地理学に関する文献の全員での購読 調査テーマや調査地に関する文献収集の方法 各自の関心に基づく研究発表 野外調査と収集データの整理法 野外調査実習
教科書	特に指定しない。

授業コード	15C06		
授業科目名	<b>演習I(2単位)(中町)(前)</b>		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	広く中東・イスラーム地域の歴史や文化に関する諸テーマを扱う。
到達目標	受講生それぞれにとって関心のあるテーマを扱った文献を輪読し、発表や討論を通じて、当該地域の歴史と文化についての具体的なイメージをつかむ。 また、神戸市近郊に存在する中東関係の様々な施設を見学し、身近にある異文化共存の問題について理解を深める。

講義方法	受講生による発表をメインとし、必要に応じて基本事項の解説を行う。 また中東関連施設の見学では、5-6名のグループを編成し、予備調査、調査準備、聞き取り、調査報告をグループ別に行う。
準備学習	受講生による発表では、具体的な文献の一つ選んでレビューするという形式を取ることがある。発表者以外の受講生にも文献のコピーをあらかじめ配布するので、必ず事前に目を通してから授業に望むこと。
成績評価	授業への参加度(平常点)と、学期末のレポートを総合して評価する。
講義構成	最初の1、2回はガイダンスとして、中東イスラーム地域に関する研究文献の調べ方、図書館レファレンスの利用の仕方を紹介する。 その後は受講生による発表および討論を行う。 課外見学については適宜、日程を調整しながら行いたい。
教科書	各回の発表担当者が指定する。
担当者から一言	希望者が集まれば、初学者向けのアラビア語勉強会を開催します。関心のある人、ゼミ生であるとないとを問わず、気軽に参加して下さい。

授業コード	15C07		
授業科目名	<b>演習I(2単位)(鳴海)(前)</b>		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		

講義の内容	この演習では、人文地理学の基礎的な考え方を学びながら、学生の希望するテーマについての知識を個々に深めていくことを目的とする。その過程では、文献の選び方やその講読、調べた課題の報告やそれに関する議論などを行い、卒業論文の作成に備える。		
到達目標	選んだ研究課題の分析が行え、そのプレゼンができる。		
講義方法	受講生全員による文献講読と討論、また担当者による報告を基本とする。		
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。		
成績評価	出席を基本とし、課題への取り組みや報告も含めて総合的に判断する。		
講義構成	①文献講読、②研究報告、③巡検		
教科書	特に指定しない。		

授業コード	15C08		
授業科目名	<b>演習I(2単位)(東谷)(前)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み 佐藤研究室		

講義の内容	受講生が選択したテーマに関わる基本的な文献を読み解き、基礎的な知識を身につける事を目的とする。		
到達目標	自身が選んだテーマに関わる文献をまとめ、学期末に5,000字のレポートを作成すること。		
講義方法	受講生による発表。		
準備学習	テーマ選択に当たり、教員に相談すること。		
成績評価	講義への参加度および学期末に提出するレポートによって評価する。		
講義構成	受講生による発表を毎回行う。 必要に応じて学外見学に出かける。		

教科書	講義中に指示する。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15C09		
授業科目名	<b>演習I (2単位)(横山)(前)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	欧米近現代史の諸問題について、問題の所在を把握し、その理解を深めます。
到達目標	欧米近現代史についての基礎的知識の獲得。
講義方法	最初に、共通のテキストを読み、欧米近現代史の研究において何が問題にされているのかについて把握し、その中で自分が関心をもつ分野を定めます。 次に、自分が焦点を定めた分野について、半期に少なくとも2回、通年で4回程報告します。
準備学習	指定教科書を予め通読しておくことが望ましい。
成績評価	出席、報告、議論への参加などを考慮した平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～5 欧米近現代史の諸問題についてのテキストの講読 6～14 個別発表 15. まとめ
教科書	E・H・カー『歴史とは何か』(岩波新書)、大下尚一他編『西洋の歴史[近現代編]』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。

担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。
---------	---------------------------

授業コード	15F01		
授業科目名	<b>演習II (2単位)(稲田)(後)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「東アジアの歴史と文化」 中華文明が影響をあたえた範囲は広くほとんど全世界に及ぶが、とりわけ東アジア・東南アジア地域に著しい。現在、中国を含む東アジア・東南アジア地域は世界でもっとも活力にあふれた地域の一つであり、同時に混沌とした地域でもある。歴史的に日本とも深くかかわるこれらの地域の諸問題について関心のある学生諸君の参加を期待する。 この授業は演習形式で行われる。文献の検索方法から議論の仕方や報告の技法にいたるまで、「卒業研究」の作成に直結する準備をする場でもある。
到達目標	文献の探し方からプレゼンテーションまで、歴史研究の基礎的な力を身につける。
講義方法	参加者全員による演習形式とする。 (1)アジアにかんする文献を読み、討論する。今年度は「人口と家族」をテーマに史料の整理と関連文献を読む。 (2)参加者各自の興味にしたがって自分のテーマを決め、それについて調査し報告する。 (3)アジアにゆかりのある地や施設などを参観する。
準備学習	はじめに参考文献を紹介するので読んでくること。

成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告
教科書	使用しない。
参考書・資料	資料は配付する。参考文献は随時紹介する。

授業コード	15F02		
授業科目名	<b>演習II (2単位)(合田)(後)</b>		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関するテーマ報告を通じて情報の収集と解析の仕方を学び、あわせてプレゼンテーション能力を培ってもらいます。		
到達目標	卒業研究テーマの設定		
講義方法	手頃な文献の紹介・書評、またはテーマ報告をしていただきます。		
準備学習	文献の読み込みとレジュメの作成		
成績評価	出席と報告内容で評価します。		
講義構成	毎時間、1名ないし2名が報告し、続いて質疑応答を行う。		
教科書	定めない。		

授業コード	15F03		
授業科目名	<b>演習II (2単位)(佐藤)(後)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「日本古代史・中世史の研究」 各自が決めた研究テーマについて研究報告を行い、卒業論文の作成にむけて準備をします。 基本的な研究方法を習得するとともに、研究報告をもとに討論を行い、日本史についての知見を深め、討論の仕方を身につけることを目的とします。		
到達目標	調査・発表、討論、レポート作成の基本を身につける		
講義方法	毎回、担当者が研究報告を行い、それをもとに討論する。		
準備学習	研究報告の準備		
成績評価	平常点とレポート(前期・後期各1回)		
講義構成	1:ガイダンス 2:3回生の研究報告 3:2回生の研究報告		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		

講義関連事項	史料研究Ⅰ・古文書学など日本史の史料を扱う講義を並行して履修することが望ましい。
--------	------------------------------------------

授業コード	15F04		
授業科目名	<b>演習Ⅱ(2単位)(出口)(後)</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	民俗と地域文化をかかげるこのゼミでは、現場に立って感じたり、考えることを重視します。フットワーク軽く現場に出向き、土地の人との会話や観察、みずからの経験に知の表現をあたえられるよう、準備しましょう。 たとえば、祭りがテーマならば、競い合い、かっこよさ、美しさの共感、恥、見栄、愛着、そのための日常、人づきあい、鍛錬、克己・・・そんな観点からとります。 文献も読みますが、めざすは己のフィールドを自分のことば・体で語ること。 2年次3年次と反復して、独創性のある卒論作成につなげていきましょう。
到達目標	だれにもまねできない自分のテーマを見つけ、人前で語り、人に共感・啓蒙していけるようになること フィールド巡検の企画の率先 卒論テーマの策定
講義方法	自分がやりたいテーマを見つけよう そのテーマと格闘しよう 関連する文献を集めてみよう 集めた文献を読んでみよう それで満足した？面白かった？ 面白くないなら、満足しないなら、満足できるもの、面白いものにするにはどうすればいい？ 人に伝えるためのレジュメをつくらう 仲間の発表に関心をもち、質問しよう 皆でひとつのテーマにとりくんでみよう 分担討議もお任せします どう？卒論の骨格はできた？ 秋の巡検にいこう！
準備学習	やりたいテーマを見つけるため、自分の心にとことんむきあうこと、ゼミの仲間意識を育てること、なにがあってもゼミには顔をだすこと、人の発表を聞き逃したら心底悔しがること、ゼミの時間を適度に過ぎさないこと、ゼミのことをいつも考えていること、その姿勢が準備学習です。
成績評価	出席が大原則です。そして、討議への参加、発表、レポートにより総合的に評価します。
講義構成	2年3年複式での授業です。 講義と実習、発表・討論で組み立てます。 後期1回必ず口頭発表をしてもらいます。
教科書	使用しない
担当者から一言	ゼミは自分たちで作りあげるところによさがあります。仲間のお世話や仕切ることも必要です。人のしていることに興味をもち、助けたり、刺激をうけたり、悔しがったり、一緒になってよりよいゼミにしていきましょう。

授業コード	15F05		
授業科目名	<b>演習Ⅱ(2単位)(中辻)(後)</b>		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	日本や海外に関する地理学的研究の基礎を学ぶことを目的とする。具体的にはまず、地理学の方法論に関する文献の購読を行う。次に、各自の関心によって文献購読を行い、地理学的な考え方や研究手法を学ぶとともに、卒業論文作成に向け、各自の関心をより具体化することを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地理学という学問分野についての基礎的な理解。</li> <li>・ 文献の探し方、読み方、レジュメの作り方、発表の仕方など、ゼミで必要となる技法を磨く。</li> <li>・ 地理学的研究で用いるさまざまな手法が使えるようになる。</li> <li>・ 各自の漠然とした問題意識を卒業論文の具体的なテーマに絞り込む。</li> </ul>
講義方法	受講者全員による文献購読と各自の研究発表、発表に対する討論を基本とします。
準備学習	日頃から書店や図書館に通い、興味関心のある本を探して下さい。また、新聞を毎日読むよう訓練しましょう。
成績評価	授業への参加度と学期末に提出するレポートを中心に評価します。
講義構成	<p>地理学に関する文献の全員での購読  調査テーマや調査地に関する文献収集の方法  各自の関心に基づく研究発表  野外調査と収集データの整理法  野外調査実習</p>
教科書	特に指定しない。

授業コード	15F06		
授業科目名	<b>演習II (2単位)(中町)(後)</b>		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	広く中東・イスラーム地域の歴史や文化に関する諸テーマを扱う。
到達目標	受講生それぞれにとって関心のあるテーマを扱った文献を輪読し、発表や討論を通じて、当該地域の歴史と文化についての具体的なイメージをつかむ。 また、神戸市近郊に存在する中東関係の様々な施設を見学し、身近にある異文化共存の問題について理解を深める。
講義方法	受講生による発表をメインとし、必要に応じて基本事項の解説を行う。 また中東関連施設の見学では、5-6名のグループを編成し、予備調査、調査準備、聞き取り、調査報告をグループ別に行う。
準備学習	受講生による発表では、具体的な文献の一つを選んでレビューするという形式を取ることがある。発表者以外の受講生にも文献のコピーをあらかじめ配布するので、必ず事前に目を通してから授業に望むこと。
成績評価	授業への参加度(平常点)と、学期末のレポートを総合して評価する。
講義構成	最初の1、2回はガイダンスとして、中東イスラーム地域に関する研究文献の調べ方、図書館レファレンスの利用の仕方を紹介する。 その後は受講生による発表および討論を行う。 課外見学については適宜、日程を調整しながら行いたい。
教科書	各回の発表担当者が指定する。

担当者から一言	希望者が集まれば、初学者向けのアラビア語勉強会を開催します。関心のある人、ゼミ生であるとないとを問わず、気軽に参加して下さい。
---------	-----------------------------------------------------------------

授業コード	15F07		
授業科目名	<b>演習II (2単位)(鳴海)(後)</b>		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
講義の内容	この演習では、人文地理学の基礎的な考え方を学びながら、学生の希望するテーマについての知識を個々に深めていくことを目的とする。その過程では、文献の選び方やその講読、調べた課題の報告やそれに関する議論などを行い、卒業論文の作成に備える。		
到達目標	選んだ研究課題の分析が行え、そのプレゼンができる。		
講義方法	受講生全員による文献講読と討論、また担当者による報告を基本とする。		
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。		
成績評価	出席を基本とし、課題への取り組みや報告も含めて総合的に判断する。		
講義構成	①文献講読、②研究報告、③巡検		
教科書	特に指定しない。		

授業コード	15F08		
授業科目名	<b>演習II (2単位)(東谷)(後)</b>		
担当者名	東谷 智(ヒガシタニ サトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日12:20~14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	受講生が選択したテーマに関わる基本的な文献を読み解き、基礎的な知識を身につける事を目的とする。		
到達目標	自身が選んだテーマに関わる文献をまとめ、学期末に8,000字のレポートを作成すること。		
講義方法	受講生による発表。		
準備学習	テーマ選択に当たり、教員に相談すること。		
成績評価	講義への参加度および学年末に提出するレポートによって評価する。		
講義構成	受講生による発表を毎回行う。 必要に応じて学外見学に出かける。		
教科書	講義中に指示する。		
参考書・資料	講義中に指示する。		

授業コード	15F09		
授業科目名	<b>演習II (2単位)(横山)(後)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	欧米近現代史の諸問題について、問題の所在を把握し、その理解を深めます。		
到達目標	欧米近現代史の基本構造の把握。		
講義方法	最初に、共通のテキストを読み、欧米近現代史の研究において何が問題にされているのかについて把握し、その中で自分が関心をもつ分野を定めます。 次に、自分が焦点を定めた分野について、半期に少なくとも2回、通年で4回程報告します。		

準備学習	指定教科書を通読しておくことが望ましい。
成績評価	出席、報告、議論への参加などを考慮した平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～5 欧米近現代史の諸問題についてのテキストの講読 6～14 個別発表 15. まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。

授業コード	15J01		
授業科目名	<b>演習II (4単位)(稲田)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	<p>「東アジアの歴史と文化」 中華文明が影響をあたえた範囲は広くほとんど全世界に及ぶが、とりわけ東アジア・東南アジア地域に著しい。現在、中国を含む東アジア・東南アジア地域は世界でもっとも活力にあふれた地域の一つであり、同時に混沌とした地域でもある。歴史的に日本とも深くかかわるこれらの地域の諸問題について関心のある学生諸君の参加を期待する。</p> <p>この授業は演習形式で行われる。文献の検索方法から議論の仕方や報告の技法にいたるまで、「卒業研究」の作成に直結する準備をする場でもある。</p>
到達目標	文献の探し方からプレゼンテーションまで、歴史研究の基礎的な力を身につける。
講義方法	<p>参加者全員による演習形式とする。</p> <p>(1)アジアにかんする文献を読み、討論する。今年度は「人口と家族」をテーマに史料の整理と関連文献を読む。 (2)参加者各自の興味にしたがって自分のテーマを決め、それについて調査し報告する。 (3)アジアにゆかりのある地や施設などを参観する。</p>
準備学習	はじめに参考文献を紹介するので読んでくること。
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	<p>前期 第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告</p> <p>後期 第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告</p>
教科書	使用しない。
参考書・資料	資料は配付する。参考文献は随時紹介する。

授業コード	15J02		
授業科目名	<b>演習II (4単位)(合田)</b>		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	3年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		
講義の内容	西洋史に関するテーマ報告を通じて情報の収集と解析の仕方を学び、あわせてプレゼンテーション能力を培ってまいります。		
到達目標	卒業研究テーマの設定		
講義方法	前期は手頃な文献の紹介・書評を、後期はテーマ報告をしていただきます。		
準備学習	文献の読み込みとレジュメの作成		
成績評価	出席と報告内容で評価します。		
講義構成	毎時間、1名ないし2名が報告し、続いて質疑応答を行う。		
教科書	定めない。		

授業コード	15J03		
授業科目名	<b>演習II (4単位)(佐藤)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「日本古代史・中世史の研究」 各自が決めた研究テーマについて研究報告を行い、卒業論文の作成にむけて準備をします。 基本的な研究方法を習得するとともに、研究報告をもとに討論を行い、日本史についての知見を深め、討論の仕方を身につけることを目的とします。		
到達目標	調査・発表、討論、レポート作成の基本を身につける		
講義方法	毎回、担当者が研究報告を行い、それをもとに討論する。		
準備学習	研究報告の準備		
成績評価	平常点とレポート(前期・後期各1回)		
講義構成	1:ガイダンス 2:3回生の研究報告 3:2回生の研究報告		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		
講義関連事項	史料研究 I・古文書学など日本史の史料を扱う講義を並行して履修することが望ましい。		

授業コード	15J04		
授業科目名	<b>演習II (4単位)(出口)</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	民俗と地域文化をかかげるこのゼミでは、現場に立って感じたり、考えることを重視します。フットワーク軽く現場に出向き、土地の人との会話や観察、みずからの経験に知の表現をあたえられるよう、準備しましょう。たとえば、祭りがテーマならば、競い合い、かつこよさ、美しさの共感、恥、見栄、愛着、そのための日常、人づきあい、鍛錬、克己・・・そんな観点からとりくみます。 文献も読みますが、めざすは己のフィールドを自分のことば・体で語ること。 2年次3年次と反復して、独創性のある卒論作成につなげていきましょう。
到達目標	だれにもまねできない自分のテーマを見つけ、人前で語り、人に共感・啓蒙していけるようになること フィールド巡検の企画の率先 卒論テーマの策定
講義方法	自分がやりたいテーマを見つけよう そのテーマと格闘しよう 関連する文献を集めてみよう 集めた文献を読んでみよう それで満足した？面白かった？ 面白くないなら、満足しないなら、満足できるもの、面白いものにするにはどうすればいい？ 人に伝えるためのレジュメをつくろう 仲間の発表に関心をもち、質問しよう 皆でひとつのテーマにとりくんでみよう 分担討議もお任せします どう？卒論の骨格はできた？ 春と秋の巡検にいこう！
準備学習	やりたいテーマを見つけるため、自分の心にとことんむきあうこと、ゼミの仲間意識を育てること、なにがあってもゼミには顔をだすこと、人の発表を聞き逃したら心底悔しがること、ゼミの時間を適度に過ぎさないこと、ゼミのことをいつも考えていること、その姿勢が準備学習です。
成績評価	出席が大原則です。そして、討議への参加、発表、レポートにより総合的に評価します。
講義構成	2年3年複式での授業です。 講義と実習、発表・討論で組み立てます。 前期1回、後期1回必ず口頭発表をしてもらいます。
教科書	使用しない
担当者から一言	ゼミは自分たちでつくりあげるところによさがあります。仲間のお世話や仕切ることも必要です。人のしていることに関心をもち、助けたり、刺激をうけたり、悔しがったり、一緒になってよりよいゼミにしていきましょう。

授業コード	15J05		
授業科目名	<b>演習II (4単位)(中町)</b>		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	広く中東・イスラーム地域の歴史や文化に関する諸テーマを扱う。
到達目標	受講生それぞれにとって関心のあるテーマを扱った文献を輪読し、発表や討論を通じて、当該地域の歴史と文化についての具体的なイメージをつかむ。 また、神戸市近郊に存在する中東関係の様々な施設を見学し、身近にある異文化共存の問題について理解を深める。
講義方法	受講生による発表をメインとし、必要に応じて基本事項の解説を行う。 また中東関連施設の見学では、5-6名のグループを編成し、予備調査、調査準備、聞き取り、調査報告をグループ別に行う。
準備学習	受講生による発表では、具体的な文献を一つ選んでレビューするという形式を取ることがある。発表者以外の受講生にも文献のコピーをあらかじめ配布するので、必ず事前に目を通してから授業に望むこと。
成績評価	授業への参加度(平常点)と、学期末のレポートを総合して評価する。
講義構成	最初の1、2回はガイダンスとして、中東イスラーム地域に関する研究文献の調べ方、図書館レファレンスの利

	用の仕方を紹介する。 その後は受講生による発表および討論を行う。 課外見学については適宜、日程を調整しながら行いたい。
教科書	各回の発表担当者が指定する。

担当者から一言	希望者が集まれば、初学者向けのアラビア語勉強会を開催します。関心のある人、ゼミ生であるとないとを問わず、気軽に参加して下さい。
---------	-----------------------------------------------------------------

授業コード	15J06		
授業科目名	<b>演習II (4単位)(鳴海)</b>		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	この演習では、人文地理学の基礎的な考え方を学びながら、学生の希望するテーマについての知識を個々に深めていくことを目的とする。その過程では、文献の選び方やその講読、調べた課題の報告やそれに関する議論などを行い、卒業論文の作成に備える。		
到達目標	選んだ研究課題の分析が行え、そのプレゼンができる。		
講義方法	受講生全員による文献講読と討論、また担当者による報告を基本とする。		
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。		
成績評価	出席を基本とし、課題への取り組みや報告も含めて総合的に判断する。		
講義構成	①文献講読、②研究報告、③巡検		
教科書	特に指定しない。		

授業コード	15J07		
授業科目名	<b>演習II (4単位)(東谷)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	受講生が選択したテーマについて、先行研究をまとめるとともに、分析の素材を見出し、分析方法を会得することを目的とする。		
到達目標	自身が選んだテーマに関わる文献をまとめ、前期末に5,000字、後期末に14,000字のレポートを作成すること。		
講義方法	受講生による発表。		
準備学習	テーマ選択に当たり、教員に相談すること。		
成績評価	講義への参加度および学年末に提出するレポートによって評価する。		
講義構成	受講生による発表を毎回行う。 必要に応じて学外見学に出かける。		
教科書	講義中に指示する。		
参考書・資料	講義中に指示する。		

授業コード	15J08		
授業科目名	<b>演習II (4単位)(横山)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	欧米近現代史の諸問題について、問題の所在を把握し、その理解を深めます。		
到達目標	欧米近現代史に関する基礎的知識の獲得。		
講義方法	最初に、共通のテキストを読み、欧米近現代史の研究において何が問題にされているのかについて把握し、その中で自分が関心をもつ分野を定めます。 次に、自分が焦点を定めた分野について、半期に少なくとも2回、通年で4回程報告します。		
準備学習	指定教科書を予め通読しておくことが望ましい。		
成績評価	出席、報告、議論への参加などを考慮した平常点評価を行います。		
講義構成	1. 導入、分担確認 2～5 欧米近現代史の諸問題についてのテキストの講読 6～14 個別発表 15. まとめ		
教科書	E・H・カー『歴史とは何か』、大下尚一他編『西洋の歴史〔近現代編〕』(ミネルヴァ書房)		
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。		
担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。		

授業コード	15061		
授業科目名	<b>観光文明学I (集中)</b>		
担当者名	真板昭夫(マイタ アキオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	1970年代に提唱された持続的な資源の利用をベースに1980年代から世界各地で始められた自然や歴史文化の環境保全を実現するために進められている「エコツーリズム開発の現状と課題」について我が国内外での実践事例を元に講義を進めていく。そして地域の人々の誇りである有形無形の「宝」遺産を持続的に保全利用しながら、未来に引き継ぎ、「持続的な観光地域づくりを行っていく仕掛けとはどうあるべきか」の謎解き！！を行います。		
到達目標	1、エコツーリズムの発生と歴史について理解し、その社会的な意義について説明できる。 2、国内国外におけるエコツーリズムの事例からエコツーリズムと地域おこしの関係を理解し、その具体策に着いていづつか発表出来るようになる。 3、エコツーリズム推進のプロセスと組み立ての構造を説明出来る。 4、エコツーリズムの宝探しから宝興しまでの企画プロデュース能力を身につける。		
講義方法	講義においてはOHPやパワーポイント、ビデオを用いて講義を進めていく。また各時間ごとに講義内容についての関連項目の個人発表を学生が出席者の前でレポートする作業を実施する。		
準備学習	1、観光資源の持続的利用と保全について事前学習のために、世界思想社から出ている「大覚寺大沢池景観修復プロジェクト—古代と現代を結ぶ文化遺産」と世界思想社「観光デザイン学の創造」のエコツーリズムデザインの章を事前に読むように。		
成績評価	出席時間数と最後の課題レポートの提出によって総合評価する。		
講義構成	1、エコツーリズムの歴史(1) 2、エコツーリズムの理論フレーム(2)		

	<p>3、国内に置けるエコツーリズム開発事例  3-1 西表島(3)(4)  3-2 南大東村(5)  3-3 二戸市(6)(7)</p> <p>4、国外でのエコツーリズム開発事例  4-1 フィジー(8)  4-2 ガラパゴス諸島(9)(10)  4-5 マカオ(11)  4-6 ボスニアヘルツゴビナ(12)</p> <p>5、エコツーリズムの新展開と地域おこし  理論フレームと課題(13)</p> <p>6、人びとの誇りを未来に引き継いでいくには(14)</p> <p>7、まとめと小論文作成テスト(15)</p>
教科書	世界思想社「大覚寺大沢池景観修復プロジェクト——古代と現代を結ぶ文化遺産」
参考書・資料	世界思想社「観光デザイン学の創造」
担当者から一言	環境保全に関わるNPOの世界の動向や、将来JICA等で働きたい人、世界遺産の保全と利用に着いて学びたい人はぜひ講義に参加してください。
ホームページタイトル	私のホームページがあります「真板昭夫」で検索してください。
URL	<a href="http://www.akio-maita.com/">http://www.akio-maita.com/</a>

授業コード	15062		
授業科目名	<b>観光文明学II(前)</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	水昼休み(後期)		

講義の内容	現代の観光を中心に、観光にもとめられるもの、観光地の盛衰、これからの観光のありかたを具体的な事例をとりあげながら講義する。 人数によっては、一緒に日帰り観光に出かけることもしたい。
到達目標	旅は行動しなければ、はじまらない。本講義から、その気になって、自分で旅にでること、そのコンセプトを組み立てること。
講義方法	ビデオや豊富なスライドを見たり、旅雑誌・フリーペーパーなどを資料に使いながら講義。 リアルタイムな旅の現場を通してホットな話を伝え、考える講義にする。
準備学習	機会をとらえて旅をすること、億劫がらずに知らない世界に飛び込むこと、それがなによりの準備学習だ。
成績評価	出席、小レポート、大レポート、巡検参加
講義構成	現代日本の観光  人間の本質的なもの—旅  旅が人・地域を育てる  国際観光地ニッポンの現代的諸相  つくられた世界と旅  旅人を旅する

	目でみる水辺の観光 (ゲストスピーカー:出口正登・写真家)  旅をささえるもの
教科書	一冊にさだめることはしない。
参考書・資料	適宜授業中に紹介する。
担当者から一言	旅こそわが命、と思う者、きてくださいな！

授業コード	15040		
授業科目名	<b>技術と文化(技術と文化I)(後)</b>		
担当者名	赤木崇敏(アカギ タカトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	<p>テーマ:「古文書から見る中央アジア史」</p> <p>前近代の世界史において、中央アジアはユーラシア全土にまたがる交通ネットワークの中心に位置するとともに、周縁の諸文明圏を文化的・経済的に結びつける大動脈としても機能しており、世界史上のその重要性は言うまでもありません。現代の国際情勢の中でも、中央アジア地域は以前にも増してその価値が再認識されつつあります。本講義では、様々な民族や文化・言語の混交するこの地域特有の歴史文化の諸相を概観します。とくに、20世紀初頭より中央アジア諸地域から発見された古文書を用いて、様々な民族の間でどのようなコミュニケーションが図られ、また現代にまでつながる言語文化がどのように創成されたのか、その技術と文化について解説します。</p>		
到達目標	<p>(1)イスラム化以前の中央アジアの歴史に関する知識を身につける。</p> <p>(2)中央アジアの様々な言語文化について理解を深める。</p>		
講義方法	毎回プリントを配布し、板書を交えて講義する。また、適宜、パワーポイント・DVDなど映像資料も使用。		
準備学習	過去プリントの復習。また、高校世界史教科書・資料集などで事項や地名を予習・復習するのがのぞましい。		
成績評価	出席状況(小テスト30%)と、期末試験(70%)によって評価する。 小テストを1回も受験していなければ(=全く出席していない場合)、成績評価しない。		
講義構成	<p>以下のトピックスを中心に授業を進める予定である。</p> <p>(1)アジアの地理と文化</p> <p>(2)中央アジア史の概観</p> <p>(3)文字と紙の発明</p> <p>(4)唐代の公文書と情報ネットワーク</p>		
教科書	特に指定しないが、過去の配布プリントを毎回持参すること。		
参考書・資料	講義中に随時紹介する。		

授業コード	15068		
授業科目名	<b>技術と文化II(前)</b>		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	<p>技術は文化の重要な構成要素の一つである。本講義では西洋の古代・中世・近世における技術史を概観し、西洋文化の特質を抽出する。とくに軍事技術と航海術に焦点をあて、近代の西洋が世界に覇権を唱えるようになるその歴史的素因を明らかにしてゆく。</p>		
到達目標	前近代の西洋の技術的特質を理解すること。		
講義方法	画像などを用いながら、主として講義形式で進める。		

準備学習	講義時に紹介する参考資料等を参照しておくことが望ましい。
成績評価	期末試験(持ち込み不可)の成績で評価する。
講義構成	1 古代ギリシア・ローマの技術と文化 2 中世の技術革新 3 大砲と帆船 4 海事革命
教科書	教科書は用いない。
参考書・資料	火器の誕生とヨーロッパの戦争 平凡社 長篠合戦の世界史 同文館出版
その他	【授業公開に際して(教職員向け)】途中入退室はできません。

授業コード	15001		
授業科目名	<b>基礎演習(前)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)、合田昌史(ゴウダ マサフミ)、佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、出口晶子(デグチ アキコ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)、中辻 享(ナカツジ ススム)、中町信孝(ナカマチ ノブタカ)、横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	各担当者から連絡します。		

講義の内容	歴史文化学科の専門科目を学ぶための基礎として、各専門分野に共通する調査・研究の方法について学びます。		
到達目標	文献検索、レジュメやレポートの作成、口頭発表などの基本的な方法を身につけること。		
講義方法	10名ほどの学生を1名の教員が指導する少人数クラスで行います。歴史文化学科のすべての専任教員が担当し、講義、グループでの作業、個々の研究発表、レポートの作成などを行います。具体的な演習の進め方は、最初の時間に各担当教員から説明します。		
準備学習	各教員が指示します。		
成績評価	平常点とレポート。少なくともレポートを4本提出してもらいます。		
講義構成	最初の時間に説明します。		
教科書	教科書はありません。		
参考書・資料	必要な参考文献は、その都度指示します。		
講義関連事項	ありません。		

担当者から一言	歴史文化学科は多様な専門領域を含んでいます。どのような専門領域を学ぶにしても、基礎的な方法を身につけていないと十分な学習、調査・研究ができません。積極的に参加してください。
---------	----------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	15026		
授業科目名	<b>現代史I(後)</b>		
担当者名	白川哲夫(シラカワ テツオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	近代・現代の日本社会と戦争・軍隊  明治時代以降の日本は、一九四五年まで断続的に戦争を続け、その後も様々な形で海外で起きた戦争の影響を受けた。それぞれの戦争は、当時の日本社会を反映する形で戦われると同時に、大きな影響を日本社会に与えるものでもあった。本授業は、政府や国家の動きではなく、社会変動や民衆の動向、兵士の視点から戦争・軍隊について考えていく。主要な方法として、①戦争における「死」がどのように取り扱われたのかということ、②それぞれの時期に、戦争について人々がどのように考えていたかということ、を中心に紹介していきたい。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

到達目標	戦争や軍隊と日本社会の関係を通じて、日本の近・現代史が抱えた問題について理解できる。あわせて、歴史を学ぶことがなぜ大切なのかを認識し、説明できる。
講義方法	口述による講義形式を基本とし、毎回資料を配布して進めていく。随時板書を使用するとともに、図表や写真、映像や音声資料も使用する。毎回授業終盤にアンケートを行い、その回答を次の授業に反映していく。
準備学習	(1) 日本の近現代史について、通史的に書かれているものを読んでおいてください。 (2) 参考文献や資料としてあげているものに、目を通すようにすること。その際、書かれている内容をうのみにせず、自分で考えること。
成績評価	資料持ち込み可の期末試験(80%)及び出席点(20%)。
講義構成	1. ガイダンス 2. 日本の軍隊(上) 3. 日本の軍隊(下) 4. 日清戦争～「国民」の戦争～ 5. 日露戦争～「軍神」誕生～ 6. 大正時代の軍隊 7. 「軍神」の光と影 8. アジア・太平洋戦争～「名誉」の戦死?～ 9. 朝鮮戦争～復興と分断～ 10. ベトナム戦争～なぜ「反戦」か～ 11. 靖国神社～その歴史～(上) 12. 靖国神社～その歴史～(下) 13. 靖国論争 14. 遺族をいやすために～「礎」論の役割～ 15. まとめ
教科書	特に使用しない。
担当者から一言	趣味や教養にとどまらない、興味深い「歴史」を紹介したいと思います。
その他	常識的な姿勢で受講してください。

授業コード	15027		
授業科目名	<b>現代史II(前)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	<p>「自由の帝国アメリカ」の歴史 アフガニスタンを攻撃し、イラクを侵略するアメリカは、いったい民主主義の国なのか、それとも帝国主義国なのか?このような問いがよく聞かれます。 この講義は、アメリカの歴史を植民地時代以来の「自由の帝国」として見ることによって、その問いに答えようとするものです。 アメリカは植民地時代以来、強烈な選民意識をもって行動してきました。それは時には隣国への侵略行為であったり、また時には海外への膨張や派兵であったりしました。そのようなアメリカの行動を正当化したイデオロギーが「自由の帝国アメリカ」という考え方だったのです。この講義では、このようなイデオロギーの生成と展開を植民地時代のアメリカからたどります。そうすると、現代アメリカの行動がよく理解できます。</p>
到達目標	アメリカ現代史について批判的に考察する力を養うこと。
講義方法	資料を参考にしながら講義を進めます。
準備学習	予めアメリカ史の通史を読んでおくことが望ましい。
成績評価	出席と期末試験により、講義への取り組みの姿勢と講義への理解を中心に評価します。
講義構成	1. 導入 2. 植民地時代アメリカの自己意識 3. 独立革命と「自由の帝国」(1) 4. 独立革命と「自由の帝国」(2) 5. 「自由の帝国」の光と影 6. 「自由の帝国」の前進＝「マニフェスト・デスティニー(明白なる運命)」

	7. 「自由の帝国」の宿命＝南北戦争 8. 「自由の帝国」の海外進出＝帝国主義国化 9. 第一次世界大戦と「自由の帝国」 10. ウッドロー・ウィルソン外交の意味 11. 第二次世界大戦と「自由の帝国」 12. 冷戦と「自由の帝国」 13. 9. 11と「自由の帝国」の再発進 14. バラク・オバマの外交 15. 「自由の帝国」の明日？
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	出席は厳密に取ります。私語厳禁です。警告1回の後、退席してもらいます。

授業コード	15028		
授業科目名	<b>現代史Ⅲ(文明の諸問題I)(後)</b>		
担当者名	蓮田隆志(ハスダ タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	おもに1930年代以降のアジアの歴史について、東南アジアを中心として概説する。		
到達目標	現代世界の動向の中に東南アジアがどのように位置づけられるのか、他人に説明できる程度の理解を獲得する。		
講義方法	日本の東南アジア史研究は世界でも屈指の水準を誇るが、その成果の中からある程度標準的な学説をもとに解説する。その際、(1)周辺他地域、とりわけ日本との関係(2)扱うトピックが近代以降の歴史学や政治の中でどのように理解されてきたのか、の二点に特に配慮して講義を組み立てる。		
準備学習	事前に地図帳などでインドより東の地域の地理を確認しておくこと。また、太平洋戦争や冷戦など現代史に関わる一般常識についても自分なりに復習しておくこと。		
成績評価	期末試験によって評価する。		
講義構成	1. ガイダンスとウォーミングアップ 2. 戦間期の世界経済と植民地支配 3. 植民地社会の変容とナショナリズム 4. 太平洋戦争と独立戦争 5. 冷戦の展開と東南アジア 6. 開発の時代		
教科書	使用しない。毎回プリントを配布する。		

授業コード	15041		
授業科目名	<b>考古学</b>		
担当者名	向井佑介(ムカイ ユウスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)

講義の内容	考古学にかんする話題は、毎日のように新聞・テレビ・インターネットで報道されていますが、考古学が具体的にどんな学問であるかは、あまり知られていません。考古学はどのような方法を用いて、どのようなことを研究しているのでしょうか。この講義では、考古学がどのような学問かを理解し、また考古学から歴史を明らかにするための方法について学びます。		
到達目標	考古学の細かな専門知識を得ることよりも、考古学の研究方法や分析方法を理解することを重視します。また、考古学の発掘・研究成果によって、歴史に対する認識がどのように変わりつつあるのかを理解することを目標とします。		
講義方法	パワーポイントを利用し、写真や図面を参照しながら、授業を進めます。		

	毎回、簡単なレジュメを配布します。
準備学習	考古学や文化財についての報道に日頃から注目するようにしてください。
成績評価	出席点(15%)、小レポート(15%)、期末試験(70%)をあわせて評価します。
講義構成	<p>前期は、考古学の方法論と、日本の先史時代の基礎的な知識を身につけます。まず、型式学・層位学など考古学の基礎的な方法や、自然科学の方法を利用した分析について学びます。あわせて、人類が誕生してから古墳時代までの歴史を概観し、日本考古学についての基礎的な知識を身につけます。</p> <p>①考古学とは何か ②考古学の方法 ③考古学と自然科学 ④日本文化のなりたち</p> <p>後期は、東アジアをはじめ世界に視野をひろげ、日本の事例と比較することで、日本文化のなりたちについて理解を深めていきます。とくに日本の古代国家の形成過程と比較するため、次のようなテーマをとりあげる予定です。</p> <p>①文明の誕生 ②墓の考古学 ③都市の考古学 ④仏教とシルクロード</p>
教科書	なし

授業コード	15057		
授業科目名	<b>古文書学</b>		
担当者名	大田壮一郎(オオタ ソウイチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)

講義の内容	歴史研究の基本的な方法の一つに、文献史料を用いて歴史過程を再構成する方法があります。これら文献史料を「古文書」「古記録」と呼びます。この講義では、まず古文書の様式について基本を学びます。さらに、古文書からどのようなことがわかるのか、古文書を使ってどのように研究を行うのか、等を実際に古文書を読みながら学びます。
到達目標	古文書学の基本としての様式論を理解し、基礎的な古文書の読解ができる。
講義方法	最初は講義形式で基本的な解説をします。途中から受講者の皆さんに実際に古文書を読んでもらいます。
準備学習	漢文の知識(高等学校までのもの)は前提となりますので、事前に復習をしておいてください。
成績評価	前期・後期の期末テストと平常点で総合評価します。平常点は読解の担当や小テスト・出席などを合計します。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書とは</li> <li>・古文書の様式(Ⅰ公式様文書 Ⅱ公家様文書 Ⅲ武家様文書 Ⅳその他)</li> <li>・古文書の読解</li> </ul>
教科書	使いません。適宜、レジュメを配布します。
参考書・資料	佐藤進一『新版 古文書学入門』(法政大学出版局)。とくに後期は古文書を実際に原史料で読みますので、『くずし字用例事典』・『くずし字解読事典』(東京堂出版)等の辞書類を用意してください。
担当者から一言	古文書の読解は、語学と同じで自分で繰り返し学ばなくては身に付きません。集中して取り組みれば、博物館や美術館に展示してある古文書も読めるようになります。積極的な受講姿勢を望みます。

授業コード	15N11		
授業科目名	<b>自然地理学(A)(前)</b>		
担当者名	道下雄大(ミチシタ ユウダイ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	自然地理学は、自然環境の地域差を人との関連性から把握する学問分野です。その対象は、地形、気候、水、生物、火山活動、地震など多岐にわたりますが、本講義では特に植物を対象とします。植物は我々の日常生活において一日たりとも欠かすことのできない存在でありながら、世界的に大きな地域差があり、自然環境を理解するのに適した材料です。
到達目標	身近な自然環境への理解を深めること
講義方法	プリントを配布し、プロジェクターなどを利用した講義形式とします。受講人数に応じて可能であれば屋外での観察も行う。
準備学習	できるだけ植物の名前を覚えてくること
成績評価	試験(50%)、レポート(50%)。試験・レポートともに1回実施。レポート課題は「身近な環境の現状と改善点」であり、最終講義(試験)までに提出するものとする。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入—植物と人との関り</li> <li>2. 植物の見分け方(1)</li> <li>3. 植物の見分け方(2)</li> <li>4. 身近な植物の観察</li> <li>5. 植物の地理的分布と進化</li> <li>6. 栽培植物の起源と多様性</li> <li>7. 照葉樹林文化論と風土論</li> <li>8. 食文化論、生物に関するタブー</li> <li>9. 花の文化史</li> <li>10. 民家庭園における植物の多様性</li> <li>11. 里山林における植物の多様性</li> <li>12. 自然保護の歴史</li> <li>13. 自然環境構成要素としての環境倫理</li> <li>14. まとめ—自然環境と人との関係性</li> <li>15. 試験</li> </ol>
教科書	教科書は指定せず、授業中に配布するプリントを使用します。
参考書・資料	宮脇昭(1970)植物と人間 生物社会のバランス. 日本放送出版協会(NHKブックス) 中尾佐助(1978)現代文明ふたつの源流：照葉樹林文化・硬葉樹林文化. 朝日新聞社(選書) 鬼頭秀一(1996)自然保護を問いなおす—環境倫理とネットワーク. 筑摩書房(ちくま新書) 平野隆久 菱山忠三郎 畔上能力 西田尚道(1989)山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花. 山と溪谷社
担当者から一言	植物を見分けることができるようになれば、自然環境に対する理解は飛躍的に向上します。ただし、短期間でできることはありませんので、真剣に考えている方は個別にご相談ください。環境倫理や民族植物学を学びたい方、自然保護関連のボランティアに興味がある方への相談にも応じます。本講義で学んだ事柄を元に、自然環境に対する理解を深めていただければ幸いです。

授業コード	15N12		
授業科目名	<b>自然地理学(B)(後)</b>		
担当者名	小倉博之(オグラ ヒロユキ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	非常勤ですので、質問や相談は講義後に教室で受け付けます。		

講義の内容	自然地理学の方法論を概説し、その展開・応用として、人口の集中する沖積平野の形成過程と特性、ならびに、わが国の自然災害特性について考察します。
到達目標	<p>自然地理学は地理学の一分野であり、さらに自然科学に属する学問です。本授業では、自然地理学の成果と手法をもちいて、われわれの生活の場である地球の上で展開する現象を探究し、それらの特性と法則性を理解することを目標とします。</p> <p>学校教育では暗記科目として扱われがちな「地理」ですが、本授業では、たんなる知識の吸収に終わらず、現象の科学的な見方、論理展開の方法、そして普遍性の探究方法を修得していただきたいと思います。さらに将来、本授業で得た知識や考え方を現実の自然・社会現象や防災などへの対応に応用されることを期待します。</p>
講義方法	板書とプロジェクター等によって図・表や写真を提示し、内容を解説する講義を主体としますが、自然現象を客観的にとらえるため、課題を出して受講者に作業・計算などをしてもらう予定です。
準備学習	授業中に与えられた課題については、期日までに仕上げることが必要です。

	また、レポートや論文の書き方については、できるだけ早いうちに本やゼミなどで学んでおくことを薦めます。
成績評価	最終評価は、平常点(授業中に数回実施する小テスト・小レポートの評価点)と定期試験の点数を総合し、絶対評価でおこないます。配点比率は、平常点が30%、定期試験が70%ですので、定期試験を受けるだけで本科目に合格することは困難です。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然地理学とは</li> <li>2. 自然現象の記録と帰納法</li> <li>3. 自然地理学における演繹法</li> <li>4. 比較による時系列変化の推論</li> <li>5. 地形をつくる作用 — 地形形成営力</li> <li>6. 地球史の時間目盛り</li> <li>7. 新生代第四紀と人類の進化・発展</li> <li>8. 平野の種類と特性</li> <li>9. アジアの平野 — 沖積平野の形成過程</li> <li>10. 沖積平野の特性</li> <li>11. 地震の発生源 — 海溝型地震と内陸型地震</li> <li>12. 活断層と内陸地震</li> <li>13. 活断層地形—地殻変動の地表への現れ</li> <li>14. 活断層の調査方法</li> <li>15. まとめ — 科学としての自然地理学</li> </ol>
教科書	教科書は指定せず、授業中に配付するプリントを使用します。
参考書・資料	池田安隆ほか「活断層とは何か」東京大学出版会。 太田陽子ほか 編著「日本の地形6 近畿・中国・四国」(他に本シリーズ各巻)、東京大学出版会。 貝塚爽平ほか 編著「写真と図でみる地形学」東京大学出版会。 貝塚爽平「平野と海岸を読む」岩波書店、自然景観の読み方5。 貝塚爽平 編著「世界の地形」東京大学出版会。 田淵 洋 編著「新版 自然環境の生い立ち—第四紀と現在」朝倉書店。 松田時彦「活断層」岩波新書。
講義関連事項	自然環境, 自然景観, 自然災害, 地球科学
担当者から一言	授業内容は回を追って深化していき、さらに毎回多くの図表を使用して進められるので、欠席すると理解が困難になります。 配付した資料は、授業内の小試験などでも使用することもありますので、過去配付分も毎回持参してください。
その他	学生時代は人生において、もっとも贅沢に時間を使うことができる期間と言えるかもしれません。自分自身の五感で直接に、あるいはメディアを通して自然・社会現象に接し、深く観察して、現象の背景を自分で考える力を身につけることを期待します。 単位の修得に関しては学則に注意して下さい。

授業コード	15052		
授業科目名	<b>史料研究I</b>		
担当者名	上田長生(ウエダ ヒサオ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)

講義の内容	<p>江戸時代には膨大な文書(もんじょ)が作成され、現在に残されています。</p> <p>特に、民間レベルでも多くの文書を作成されたことは、江戸時代の特徴の一つといえます。それらの適切な読解を行うことで、江戸時代の社会について豊かで具体的な像を描きだすことができます。</p> <p>本講義では、まず、江戸時代の史料の読み方の基礎と調べ方を解説します。その上で、実際に江戸時代の法令を読み、特有の言いまわしや用語を学びます。次に、江戸時代の村で作成された史料を読むことで、史料読解の習熟を目指します。また、そこから村の仕組みや生活、さらには江戸時代の社会についてどのようなことが読み取れるのかを考えていきます。講義の進展度を考慮して、適宜教員による解説を加えます。</p> <p>最後に、史料のもとになる古文書に触れることで、その特徴や、史料と古文書の違いを理解し、古文書の読解の大切さを学びます。</p>
到達目標	歴史学の基礎は史料の正確な読解・解釈です。そのために、どのような手段で、どのように調べる必要があるのかを学び、歴史学を基礎的な力を身につけることを目指します。
講義方法	演習形式(受講生による発表)
準備学習	発表担当者以外も必ず事前に当該史料を読み、その意味を調べておくこと。

成績評価	平常点・レポートを組み合わせで評価する。
講義構成	1、ガイダンス・分担確認 2、江戸時代の史料の特徴 3、史料講読(江戸時代の法令) 4、史料講読(村で作成された史料) 5、古文書の読解
教科書	読解する史料はコピーを配布します。
参考書・資料	『増訂近世古文書解読字典』(柏書房)、若尾俊平編著『図録古文書入門事典』(柏書房)のいずれかの購入を勧めます。その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。
担当者から一言	江戸時代は、私たちから遠く思われる一方で、とても身近な時代でもあります。江戸時代の史料を読むことで、現在につながる部分や異なる部分を感じ取ってほしいと思います。史料を読むには根気がいりますが、じっくり取り組んでください。

授業コード	15Q11		
授業科目名	<b>史料研究II(1クラス)</b>		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
オフィスアワー	月曜日・金曜日の昼休み		

講義の内容	近世ヨーロッパの対外膨張に関する問題を考察する。
到達目標	史料の読み方を習得すること。
講義方法	英語の研究文献ないし一次史料を配布し、それらをもとに読解と解説を進める。
準備学習	文献を読み込むこと。
成績評価	平常点と後期末の試験で評価する。
講義構成	初回講義時に知らせる。
教科書	初回講義時に知らせる。

授業コード	15Q12		
授業科目名	<b>史料研究II(2クラス)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	ヨーロッパの文学と歴史の源泉であるホメロスの英雄叙事詩と、1920年代のアメリカを描いた社会史の傑作を輪読します。古代と現代に関わる名著を読むことによって、変わらぬ人間の心にふれることができます。
到達目標	古代から現代まで変わらぬ人間の心情の機微や苦悩を知ること。
講義方法	指定文献を輪読します。
準備学習	藤縄謙三『ホメロスの世界』(至誠堂新書)、岡道男『ホメロスにおける伝統の継承と創造』(創文社)などに注意すること。
成績評価	授業中のパフォーマンス、議論への参加状況などを考慮した平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～7. 輪読 8. 中間総括

	9～14. 輪読 15. まとめ
教科書	『イリアス』(上)、(下)、(岩波文庫)、『オデュッセイア』(上)、(下)(岩波文庫)、 F.L.アレン『オンリー・イエスタデイ』(ちくま文庫)
参考書・資料	適宜紹介、配布します。
担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。

授業コード	15M21		
授業科目名	人文地理I (A)(前)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	文学部		

講義の内容	人文地理学は、幅広い研究の領域を持つ学問である。その特徴は、人と空間・環境の関わりをみる学問であるといえる。ここでは特に「都市」というテーマに関心を集め、人と地域の関わり方の歴史について考える。
到達目標	人文地理学的な視点から「地域」ととらえる見方を学ぶことを目標とする。
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。
講義構成	(0)ガイダンス:①全体の紹介、②地理学の考え方 (1)近代地理学の概説:①近代地理学の成立、②地理学の様々な関心 (2)都市の地理学:①都市の概念、②都市の分類、③都市プランという考え方 (3)空間分布のパターンとその古典的モデル:①クリスタラーの中心地理論、②都市計画における中心地理論の応用 (4)郊外住宅の登場:①近世都市の限界、②都市計画という技術、③田園都市というモデル、④ニュータウンの開発 (5)まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。

授業コード	15M22		
授業科目名	人文地理I (B)(前)		
担当者名	阪野祐介(サカノ ユウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	他学部		

講義の内容	人文地理学では、人は環境(自然や社会、歴史)の中でどのような営みを行ってきたのかを知ることが一つの目的でもある。そこから、現在ある世界の様々な問題を解決するための糸口を見つけ出し、解決のためにはどうすべきかを考えるきっかけになると考える。本講義では、とくに地域や景観、空間、場所をキーワードとしながら進める予定である。
到達目標	人文地理学の基本的な知識を習得し、身の回りの日常の風景の中にある問題や意味を見つけ出すことができる。
講義方法	基本的には講義形式で進めるが、授業内で地図の読解などの作業を行う。場合によっては、グループディスカッションを行うこともある。

準備学習	配布プリントの復習を行ったり、授業内で紹介する参考文献に親しむこと。
成績評価	定期試験(60%)、授業参加度(ミニレポート等40%)。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 人文地理学の流れ(1)</li> <li>3. 人文地理学の流れ(2)</li> <li>4. 村落空間と村落景観(1)</li> <li>5. 村落空間と村落景観(2)</li> <li>6. 村落と社会関係(2)</li> <li>7. 村落と社会関係(2)</li> <li>8. 都市の景観(1)</li> <li>9. 都市の景観(2)</li> <li>10. 都市の景観(3)</li> <li>11. 都市と空間認知</li> <li>12. 都市空間とエスニック・グループ(1)</li> <li>13. 都市空間とエスニック・グループ(2)</li> <li>14. 都市空間とエスニック・グループ(3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
教科書	なし。授業内で参考文献を適宜紹介する。

授業コード	15M31		
授業科目名	<b>人文地理II (A)(後)</b>		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	文学部		

講義の内容	人文地理は、幅広い研究の領域を持つ学問である。その特徴は、人と空間・環境の関わりをみる学問であるといえる。ここでは基本資料のひとつである古地図を紹介する。特に角度の測量というテーマから、地図史を学ぶ。特に近世日本の事例を中心とする予定である。
到達目標	人文地理学の基本資料である古地図を理解する。
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)ガイダンス：地図という表現</li> <li>(2)地図の歴史の概説：①世界の地図史、②日本の地図史</li> <li>(3)ポルトラノ海図とコンパス：①地中海の海図、②日本におけるポルトラノ海図の受容</li> <li>(4)近世日本における地図作製とコンパス：①廻り検地、②村と都市の測量、③伊能忠敬再考</li> <li>(5)近世日本における水準の測量：①海を干拓する技術、②河川を改修する技術</li> <li>(6)近代地形図の登場：①三角測量と地図、②日本の三角測量</li> <li>(7)まとめ</li> </ol>
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。

授業コード	15M32		
授業科目名	<b>人文地理II (B)(後)</b>		
担当者名	阪野祐介(サカノ ユウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	他学部		
講義の内容	人文地理学では、人は環境(自然や社会、歴史)の中でどのような営みを行ってきたのかを知ることが一つの目的でもある。そこから、現在ある世界の様々な問題を解決するための糸口を見つけ出し、解決のためにはどうすべきかを考えるきっかけになると考える。本講義では、とくに地域や景観、空間、場所をキーワードとしながら進める予定である。		
到達目標	人文地理学の基本的な知識を習得し、身の回りの日常の風景の中にある問題や意味を見つけ出すことができる。		
講義方法	基本的には講義形式で進めるが、授業内で地図の読解などの作業を行う。場合によっては、グループディスカッションを行うこともある。		
準備学習	配布プリントの復習を行ったり、授業内で紹介する参考文献に親しむこと。		
成績評価	定期試験(60%)、授業参加度(ミニレポート等40%)。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 環境問題(1)</li> <li>3. 環境問題(2)</li> <li>4. 環境問題(3)</li> <li>5. 環境問題(4)</li> <li>6. 観光と地域(1)</li> <li>7. 観光と地域(2)</li> <li>8. 観光と地域(3)</li> <li>9. 観光と地域(4)</li> <li>10. 宗教の地理学(1)</li> <li>11. 宗教の地理学(2)</li> <li>12. 宗教の地理学(3)</li> <li>13. 宗教の地理学(4)</li> <li>14. 宗教の地理学(5)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	なし。授業内で参考文献を適宜紹介する。		

授業コード	15M11		
授業科目名	人文地理 (A)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜1限)、後期(水曜1限)
特記事項	文学部		
講義の内容	人文地理学は、幅広い研究の領域を持つ学問である。その特徴は、人と空間・環境の関わりをみる学問であるといえる。ここでは特に「都市」(前期)および「地図」(後期)というふたつのテーマに関心を集め、人と地域の関わり方の歴史について考える。		
到達目標	人文地理学的な視点から「地域」をとらえる見方を学ぶことを目標とする。		
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。		
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。		
成績評価	期末試験(前後期とも実施予定)による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。		
講義構成	<b>【前期】</b> (1)ガイダンス:①全体の紹介、②地理学の考え方 (2)近代地理学の概説:①近代地理学の成立、②地理学の様々な関心 (3)都市の地理学:①都市の概念、②都市の分類、③都市プランという考え方 (4)空間分布のパターンとその古典的モデル:①クリスタラーの中心地理論、②都市計画における中心地理論の応用 (5)郊外住宅の登場:①近世都市の限界、②都市計画という技術、③田園都市というモデル、④ニュータウンの		

	開発 (6)まとめ <b>【後期】</b> (1)ガイダンス:地図という表現 (2)地図の歴史の概説:①世界の地図史、②日本の地図史 (3)ポルトラノ海図とコンパス:①地中海の海図、②日本におけるポルトラノ海図の受容 (4)近世日本における地図作製とコンパス:①廻り検地、②村と都市の測量、③伊能忠敬再考 (5)近世日本における水準の測量:①海を干拓する技術、②河川を改修する技術 (6)近代地形図の登場:①三角測量と地図、②日本の三角測量 (7)まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。

授業コード	15M12		
授業科目名	<b>人文地理 (B)</b>		
担当者名	阪野祐介(サカノ ユウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	他学部		

講義の内容	人文地理学では、人は環境(自然や社会、歴史)の中でどのような営みを行ってきたのかを知ることが一つの目的でもある。そこから、現在ある世界の様々な問題を解決するための糸口を見つけ出し、解決のためにはどうすべきかを考えるきっかけになると考える。本講義では、とくに地域や景観、空間、場所をキーワードとしながら進める予定である。
到達目標	人文地理学の基本的な知識を習得し、身の回りの日常の風景の中にある問題や意味を見つけ出すことができる。
講義方法	基本的には講義形式で進めるが、授業内で地図の読解などの作業を行う。場合によっては、グループディスカッションを行うこともある。
準備学習	配布プリントの復習を行ったり、授業内で紹介する参考文献に親しむこと。
成績評価	定期試験(60%)、授業参加度(ミニレポート等40%)。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(1)</li> <li>2. 人文地理学の流れ(1)</li> <li>3. 人文地理学の流れ(2)</li> <li>4. 村落空間と村落景観(1)</li> <li>5. 村落空間と村落景観(2)</li> <li>6. 村落と社会関係(2)</li> <li>7. 村落と社会関係(2)</li> <li>8. 都市の景観(1)</li> <li>9. 都市の景観(2)</li> <li>10. 都市の景観(3)</li> <li>11. 都市と空間認知</li> <li>12. 都市空間とエスニック・グループ(1)</li> <li>13. 都市空間とエスニック・グループ(2)</li> <li>14. 都市空間とエスニック・グループ(3)</li> <li>15. まとめ(1)</li> <li>16. ガイダンス(2)</li> <li>17. 環境問題(1)</li> <li>18. 環境問題(2)</li> <li>19. 環境問題(3)</li> <li>20. 環境問題(4)</li> <li>21. 観光と地域(1)</li> <li>22. 観光と地域(2)</li> <li>23. 観光と地域(3)</li> <li>24. 観光と地域(4)</li> <li>25. 宗教の地理学(1)</li> <li>26. 宗教の地理学(2)</li> <li>27. 宗教の地理学(3)</li> </ol>

	28. 宗教の地理学(4) 29. 宗教の地理学(5) 30. まとめ(2)
教科書	なし。授業内で参考文献を適宜紹介する。

授業コード	15N41		
授業科目名	<b>西洋史I (A)(前)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	<p>アメリカ民主主義の歴史的展開をたどることにより、現代アメリカと世界への理解と洞察力を養うことを目的にします。</p> <p>この講義では、アメリカ民主主義の本質を民衆の政治的自己決定としてとらえ、それをアメリカ・ポピュリズムと呼びます。このようなポピュリズムとしてのアメリカ民主主義がどのようにして生まれ、政治文化の中心となり、現在とはどのような状況であるのかをたどってくると、現在アメリカ政治の特質がよくわかります。また、日本を含めた世界の政治の現状も見通せます。</p>
到達目標	アメリカ民主主義についての基本的理解の獲得。
講義方法	配布資料を参照しつつ講義を進める。
準備学習	アメリカ史についての基礎的知識を整理しておくことが望ましい。
成績評価	出席と期末試験により、講義への取り組みの姿勢と講義の理解を中心に評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. アメリカ独立革命とアメリカ民主主義</li> <li>3. 白人男性大衆民主主義の誕生</li> <li>4. 自由労働イデオロギー</li> <li>5. 黒人奴隷制度とアメリカ民主主義</li> <li>6. 性差別とアメリカ民主主義</li> <li>7. ポピュリストの蜂起</li> <li>8. 革新主義の意味</li> <li>9. ニューディールとアメリカ民主主義</li> <li>10. 公民権運動とアメリカ民主主義</li> <li>11. 1960年代とアメリカ民主主義</li> <li>12. レーガン革命とアメリカ民主主義</li> <li>13. アメリカ民主主義の現在</li> <li>14. オバマ革命とアメリカ民主主義</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
教科書	特にありません。適宜プリント資料を配布します。
参考書・資料	参考書は適宜紹介します。資料はプリントの形で適宜配布します。
担当者から一言	私語厳禁です。警告1回の後退室してもらいます。

授業コード	15N42		
授業科目名	<b>西洋史I (B)(前)</b>		
担当者名	園屋心和(ソノヤ ムネカズ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
講義の内容	<p>現代の国家の多くは、多かれ少なかれ、「国民国家」の原理をその基礎に持つといえるが、史上、国民国家が最初に成立したのは西ヨーロッパであると考えられている。本講義では、近世から近代にかけての、フランスおよびドイツにおける国民国家の形成を対比的に概観しながら、以下の点について学ぶ。</p>		

	1. 国民国家とそれ以前の「国家」の相違 2. 国家、国民、民族、国境といった観念の変化ならびにナショナリズムの生成 3. 国民国家が抱えている諸問題(今日も見出される問題との関連)
到達目標	1. フランスおよびドイツを中心とする近世・近代ヨーロッパ史の主要なトピックについて知っている 2. 国民国家をめぐる基本的な問題について知っている 3. 過去の歴史的な出来事と現代の問題とを関連づけて考える姿勢を見つける
講義方法	配布プリント(レジュメ、資料)および板書を用いて講義をすすめる。レジュメ・プリントは穴埋め式になっているが、単に空欄を埋めて満足するのではなく、話の要点を適宜ノートしていくことが求められる。
準備学習	高校で世界史を学んでいることが望ましい。但し、履修の絶対要件ではない。受講にあたって、特別な予習は必要ないが、授業内容を理解する上で必ず助けとなるので、最低一度は、高校世界史の教科書、できれば西洋史の概説書の関連部分を通読することを勧める。
成績評価	学期末の筆記試験で評価する(100%)。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回 基本的用語の説明 第3～4回 ウェストファリア条約と「主権国家体制」の成立 第4～5回 絶対王政と身分制国家 第6～7回 ブルボン朝フランスによるアルザス制圧 第8～9回 フランス革命と国民国家の誕生 第10～11回 ナポレオン戦争とドイツ・ナショナリズムの高揚 第11～12回 プロイセンの台頭とドイツ統一への道 第13～14回 普仏戦争とドイツ帝国によるアルザス併合 第15回 全体のまとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	授業で用いるプリントはこちらで配布する。  参考書(例) 谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社、1999 若尾・井上編著『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2005 谷川・渡辺編著『近代フランスの歴史—国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房、2006
その他	私語は控える、携帯電話は消音などの最低限のマナーは守って下さい。

授業コード	15N51		
授業科目名	<b>西洋史II (A)(後)</b>		
担当者名	梶 さやか(カジ サヤカ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
講義の内容	東ヨーロッパ近・現代史 本講義ではロシアを含む東ヨーロッパの歴史を学ぶ。中世のキリスト教化や国家の成立、近世のルネサンスや宗教改革ならびに社会構造をふまえて、近代における社会の変質や帝国とナショナリズム、20世紀の二つの世界大戦、社会主義体制などを取り上げる。こうした東ヨーロッパの歴史が、今を生きる人々の意識や現代の政治といかに関わっているのかについても注目する。また、本講義で学ぶ事柄を通じて、「東ヨーロッパ」という概念についても再検討を行う。		
到達目標	・東西ヨーロッパの共通点や相違点、ヨーロッパとその周辺地域の関係を理解する。 ・様々な地域の歴史を通じて、複眼的な歴史理解を身につける。		
講義方法	講義。板書と随時配布するプリントが中心だが、視覚教材も用いる予定。		
準備学習	高校の世界史を履修していることが望ましいが、必須条件ではない。また、現在の東ヨーロッパの政治・経済・文化に日ごろから関心をもって接すること。		
成績評価	・学期末の筆記試験 ・平常点(講義への取り組み方) ・出席回数を受験資格とする		
講義構成	本講義では、東ヨーロッパの近代・現代の歴史を以下の構成で学んでゆく。 第1-2回: 導入 東ヨーロッパとは何か 第3-6回: 中世・近世 東ヨーロッパ世界の成立と展開		

	第7-9回:近代 三つの帝国(ハプスブルク・オスマン・ロシア)とナショナリズム、社会の変化(「近代化」) 第10-12回:20世紀 東ヨーロッパと二つの世界大戦、社会主義体制 第13回:東ヨーロッパの歴史と現在 第14回:まとめ 第15回:試験
教科書	なし
参考書・資料	講義のなかで適宜指示する。
担当者から一言	日本では取り上げられることの少ない東ヨーロッパの歴史を学ぶことで、複眼的な歴史のとらえ方を身につけ、これまで持っていた「ヨーロッパ史」イメージを相対化してみよう。
その他	私語は禁止。携帯電話はマナーモードにすること。

授業コード	15N52		
授業科目名	<b>西洋史II (B)(後)</b>		
担当者名	宮坂康寿(ミヤサカ ヤストシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	中世ヨーロッパには、大きく聖職者・騎士・市民・農民の四つの身分が存在した。本講義では、このうち中世ヨーロッパ社会の上流階級を構成した聖職者と騎士を取り上げ、各々にまつわる世界の諸相をいくつか紹介する。		
到達目標	ヨーロッパの社会・文化の基礎が中世に形成されたことを知ると同時に、現代人と中世人の心性の違いについても理解する。		
講義方法	板書を交えた講義。ビデオ教材も適宜利用する。		
準備学習	予習はとくに必要としない。用語集(大学受験用でも可)があれば、基礎知識の確認には便利であろう。		
成績評価	期末試験の成績で評価する。		
講義構成	それぞれ以下のテーマについて、順を追って講義を進める。ただし、時間的なウエイトは、〔聖職者(キリスト教)の世界〕の方にいくらか多く置かれることになる。  〔聖職者(キリスト教)の世界〕 1) 教会権力と世俗権力 2) 修道制の発展と修道院文化 3) 異端審問制の成立と魔女裁判 〔騎士の世界〕 1) 封建社会と騎士 2) 十字軍と騎士修道会 3) 騎士道理念と騎士文学		
教科書	使用しない。		

授業コード	15016		
授業科目名	<b>西洋史の諸問題</b>		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜4限)、後期(月曜4限)
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	中世から近世までの西洋史における主要な問題を取り上げ概観する。		
到達目標	中近世における西洋史の基礎知識を獲得すること。		
講義方法	画像などを用いて、主として講義形式で進める。		
準備学習	講義時に紹介する参考資料等を参照しておくことが望ましい。		

成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	1 ヨーロッパの形成1。イスラムとキリスト教ヨーロッパ 2 ヨーロッパの形成2。十字軍とレコンキスタ 3 ヨーロッパの危機。 4 ヨーロッパの膨張1。ポルトガル 5 ヨーロッパの膨張2。スペイン 6 ヨーロッパの膨張3。オランダ 7 ヨーロッパの膨張4。フランス・イギリス
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	『スペイン・ポルトガル史』山川出版社 『西洋の歴史』ミネルヴァ書房 『大航海の時代』同文館 『マゼランー世界分割を体現した航海者』京都大学学術出版会 (その他、講義時に紹介する)
その他	【授業公開に際して(教職員向け)】途中入退室はできません。

授業コード	15023		
授業科目名	<b>西洋社会史(歴史と思想II)(後)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	オバマ当選に至るまでのアメリカ黒人の歴史をグローバルな視野から理解することを目標にします。
到達目標	アメリカ黒人史の基本的流れの把握。
講義方法	配布資料を参考にしながら講義形式で授業を進めます。
準備学習	アメリカ史の通史を読んでおくことが望ましい。
成績評価	出席と期末試験により、講義への取り組みの姿勢と講義への理解を中心に評価します。
講義構成	第1回: イントロダクション(アメリカ黒人の歴史を学ぶことの意義について) 第2回: アメリカ黒人奴隷制の始まり 第3回: アメリカ独立革命と黒人奴隷制 第4回: 南北戦争前のアメリカの政治経済構造と黒人奴隷制 第5回: 南北戦争の原因と黒人奴隷制 第6回: 南北戦争と黒人 第7回: 南北戦争と奴隷解放の意味 第8回: 「どん底」の時代—ジムクロウ制度と選挙権剥奪— 第9回: 差別と戦う黒人たち—B.T.ワシントンとW.E.B.デュボイス— 第10回: ハーレム・ルネサンスとガーヴェイズム 第11回: 大恐慌・ニューディールと黒人 第12回: 黒人公民権運動の胎動 第13回: 黒人公民権運動の展開 第14回: 黒人公民権後の黒人—オバマまで— 第15回: まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	本田創造『アメリカ黒人の歴史』(岩波新書)。その他、適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	私語厳禁です。警告1回の後退室してもらいます。

授業コード	15K01
-------	-------

授業科目名	<b>卒業研究(稲田)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～14:30		

講義の内容	4年間の学習の集大成として卒業論文を作成する。資料の収集、論文の構想などにつき、段階的に発表してもらい、受講者皆で討論し、助言する。		
到達目標	アジア史に関する特定のテーマについて、研究史・関連するおもな史料をふまえて、自分の見解を述べるができる。		
講義方法	各自が論文のテーマを選定し、それについて調べ報告する。また、報告について参加者間で意見を交換する。		
準備学習	日常的にアンテナをはりめぐらし、情報を収集、集積する。		
成績評価	論文と口頭試問により総合的に評価する。		
講義構成	第1回をオリエンテーションの時間とし、そのときに指示する。		
教科書	使用しない。		

授業コード	15K02		
授業科目名	<b>卒業研究(合田)</b>		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		

講義の内容	前期は卒業論文の作成に向けて各自でテーマの絞り込みと先行研究の調査を行ってまいります。後期は各自の進捗度に応じて個別に論文作成の指導を行います。		
到達目標	独創性のある作品としての卒業論文を目指してください。		
講義方法	各自が卒業論文のテーマを決定し、それについて調べ報告する。		
準備学習	前年度までの演習における報告内容を整理し、テーマ設定に向けて準備すること。		
成績評価	論文と口頭試問により総合的に評価する。		
講義構成	毎時間、各自がテーマ報告を行い、それについて質疑応答あるいは指導を行う。		
教科書	指定しない。		

授業コード	15K03		
授業科目名	<b>卒業研究(佐藤)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	卒業論文作成のための演習を行います。		
到達目標	卒論の作成		
講義方法	卒業論文の中間報告と討論		

準備学習	卒論の準備
成績評価	卒業論文
講義構成	1. 卒業論文の構想 2. 卒業論文の構成と内容
教科書	なし
参考書・資料	なし
講義関連事項	なし

授業コード	15K04		
授業科目名	<b>卒業研究(出口)</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	各自のテーマに即した卒論研究のための全体指導と個別指導 月1回のペースで集まり、進展状況の報告をする 論文の書き方、書式の指導 フィールド調査の指導 データの集積と分析の指導 論文の組み立てと論考の指導
到達目標	ほかのだれでもない、自分のオリジナルな論を堂々と論じること
講義方法	互いの報告を聞きながら、助言に徹します。 夏休み前に目次等骨組みを決定。 秋からは、個別指導と全体指導。 合宿も検討しています。
準備学習	フィールドは相手あってのもの、時機あってのもの、時間を上手にやりくりして、逃げ出さないことが肝心です。かならず結果はついてきます。
成績評価	卒業論文と試問
講義構成	講義内容、講義方法を参照
教科書	ありません。
担当者から一言	自分のもっている能力を過小評価してはいけません。最後まで気をぬかない！手をぬかない！かならずよいものができます。

授業コード	15K05		
授業科目名	<b>卒業研究(中町)</b>		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	卒業論文を作成するための演習を行う。
到達目標	卒業論文を完成させる。
講義方法	受講生が各自の研究テーマの進捗を報告し、報告をもとに個別指導を行う。

準備学習	2、3年次の演習における各自の発表内容をおさらいしておくこと。
成績評価	論文と口頭試問による。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	特に指定しない。

授業コード	15K06		
授業科目名	<b>卒業研究(鳴海)</b>		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		

講義の内容	卒業論文作成のための演習を行う。		
到達目標	卒業論文を作成する。		
講義方法	卒業論文作成に向けた準備報告とその討論		
準備学習	授業で示した資料を読む。		
成績評価	提出された論文と口頭試問		
講義構成	適時連絡する。		
教科書	特定の教科書は指定しない。		

授業コード	15K07		
授業科目名	<b>卒業研究(東谷)</b>		
担当者名	東谷 智(ヒガシタニ サトシ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	卒業論文を作成すること。		
到達目標	論理立てて歴史の事象を説明できるようになること。		
講義方法	受講生の準備報告および個別指導。		
準備学習	日本史に関わる基礎的な文献をできるだけ多く読んでおくこと。		
成績評価	卒業論文作成に向けた準備報告の内容、および提出された卒業論文によって評価する。		
講義構成	受講生の報告および個別指導。		
教科書	用いない。		
参考書・資料	適宜指示する。		

授業コード	15K08		
授業科目名	<b>卒業研究(横山)</b>		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	4年次	単位数	8

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		
講義の内容	卒論作成指導。		
到達目標	卒論作成。		
講義方法	ゼミ及び個人指導による卒論作成指導。		
準備学習	これまでの研究経過をまとめておくこと。		
成績評価	卒論内容及び平常点を評価する。		
講義構成	1. イントロダクション 2～7. 個別発表 8. 中間総括 9～14. 個別発表 15. 総括		
教科書	なし。		
参考書・資料	特になし。		

授業コード	15L11		
授業科目名	<b>地誌 (A)</b>		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	文学部		
オフィスアワー	前期、後期とも火曜2限		

講義の内容	<p>【前期】世界の生業と文化 この授業ではまず、世界各地の自然環境のなかで育まれてきた狩猟採集、牧畜、焼畑などの生業に焦点をあて、その仕組みや近年の変化について考える。さらに、ムギ、ジャガイモ、雑穀、肉類など世界各地で主食となっている作物や畜産物に焦点をあて、それに関わる農耕や食文化について考える。世界各地の伝統的な生業や食文化のありようには、その地域の文化が最も本源的に表れる。この授業で生業や食文化に焦点を当てようとするのはこのためである。</p> <p>【後期】日本地誌の諸問題 この授業ではまず、日本の自然、社会、文化の特徴を諸外国と比較しつつ説明したい。次に、特に農村部に焦点をあて、農林業の低迷や過疎・高齢化といった問題をそれが発生した経緯とともに概説する。さらに、グローバルイゼーションの中での日本へのヒトやモノの移動と、それをめぐる諸問題について考察したい。</p>
到達目標	<p>【前期】自然環境と人間社会の相互作用の中で育まれてきた世界各地の生活様式の特徴を知ること。また、発展途上国農村の抱える問題について基礎的な理解を得ること。</p> <p>【後期】日本の自然の特徴との中で育まれてきた生業や社会関係の特徴について基礎的な理解を得ること。さらに、現在の地方や農村の抱える問題について理解を深めること。</p>
講義方法	板書と配布資料が中心であるが、必要に応じてスライドやビデオを用い、理解を深めたい。
準備学習	授業で紹介する参考図書を読んでみて下さい。
成績評価	定期試験(90%)と授業中の課題(10%)により評価する。
講義構成	<p>前期</p> <p>(1)ガイダンス ～文化と生態系 (2)狩猟採集民の捉え方をめぐって (3)牧畜民の暮らし (4)焼畑の生態的合理性 (5)焼畑民の暮らしの変化 (6)ヨーロッパの混合農業 (7)農業革命論について (8)中央アンデス高地のジャガイモ栽培 (9)アンデスから世界に渡ったジャガイモ</p>

	(10)世界の雑穀栽培 (11)日本の焼畑と雑穀 (12)茶の起源と伝播 (13)農業に不可欠な水資源の問題 (14)まとめ 後期 (1)日本の平野の特徴 (2)水田開発の展開—新潟平野を事例に (3)里山景観の変化 (4)山村での暮らし—ゼンマイ採集に注目して (5)山の神と日本人 (6)日本の村落社会の特徴 (7)戦後日本の地域構造と地域政策 (8)食料自給率の低下と日本の農業 (9)日本の森林と林業 (10)過疎問題と限界集落 (11)日本の中の外国人
教科書	特に指定しない。中高で用いたものでよいので地図帳の持参が望ましい。
参考書・資料	授業中に紹介する。

授業コード	15L12		
授業科目名	<b>地誌(B)</b>		
担当者名	藤田裕嗣(フジタ ヒロツグ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜5限)、後期(月曜5限)
特記事項	他学部		

講義の内容	<p>「地誌」とは、特定の「地域」に関する地理的情報の整理された記述である。それを提示する学問としての「地誌学」(地域地理学)は、地理学において系統地理学(一般地理学)に並ぶ1大分野と評価されてきた。本講義では、これら「地理学」の中に占める「地誌学」の位置づけから始めつつ、「地誌」を個々に記述する方向はとらず、「地誌学」のさらなる研究可能性を歴史のなかに探ってみたい。</p> <p>そのために、まず「地誌」に関する研究史を整理する。その上で、わが国の「地誌」の歩みに関して、とくに古代(風土記)と近世(新編武蔵風土記稿、など)を中心に辿り、その記述内容から再構成しうる当時の「地域」像も提示する。これら前期に扱う「地誌」は、文章で表現され、それを読む方向性が指定されたアナログデータである。</p> <p>一方、後期は古地図を取り上げる。古地図に描かれた建物や道といった要素(図像、記号)は、相互の位置関係に従って配置されている。そして、それらの要素を読む順序が予め明示されていないという意味で、デジタルデータと言える。そのような性格を持つ古地図の中に描き込まれた「地域」像を解読する。前期との連続性から、日本中近世の地域図から始め、ヨーロッパにおける近代地図帳、さらにはそれ以外の文化圏で作成された古地図、の順に検討し、世界へと目を広げる。最後に、前期で取り上げた文章としての「地誌」と比較する。</p>
到達目標	カーナビゲーションシステムの普及もあって、地図は日常生活に浸透してきた。高校「地理歴史」で「地理」を担当する場合はもちろんのこと、世界史や日本史の履修でも地図を読む技術は役立つ。地図を読む訓練を通じて、地理的事象に対する基礎的な考え方も身につけられる。
講義方法	講義形式を基本とするが、地図を読む技術を養うには実践が必要であり、そのための実習も適宜、盛り込む。さらに、「地図」自体がグラフィックデータであり、視聴覚教材を最大限に活用する予定である。教科書は、主に後期で使用し、地図における彩色やその他の情報が不足するため、視聴覚教材で補う。
準備学習	日常生活で「地図」に触れたら、意識してみましょう。それが第一歩です。
成績評価	期末に実施する試験で60%。通年講義ではあるが、前期末にも簡単な試験を実施する予定である。さらに、抜き打ち的にアンケートや課題を課することで、出席も確認し、40%に換算する。
講義構成	<p>[前期] I. 地理学と地誌学(第2・3回;第1回はプロローグ) II. 日本における「地誌」の歩み 1) 古代—風土記(第4～7回) 2) 近世(第8～13回) III. まとめと後期への展望(第14・15回)</p> <p>[後期] まず日本中近世の地域図を紹介した後(I)、16世紀から17世紀にかけて相次いで登場したヨーロッパにおける近代地図帳について、「地域」に着目して論じる(II)。最後に、中国など、それ以外の文化圏で作成された古地図を取り上げる(III、IV)。主な地図(ないしはジャンル)名を下の&lt; &gt;内に示した。</p>

	<p>I. 日本の地域図</p> <p>1)生活空間(身近な領域)を描いた地図&lt;古代の開田図、中世の荘園絵図&gt;(第1~3回)</p> <p>2)さまざまな領域図&lt;道中図、川絵図;近世町絵図&gt;(第4~6回)</p> <p>II. ヨーロッパにおける近代地図帳</p> <p>1)世界地図帳&lt;オルテリウス『世界の舞台』1570、日本図を含めた各図「地域」&gt;(第7回)</p> <p>2)都市地図帳&lt;ブラウンとホーヘンベルグ『世界都市図帳』1572&gt;(第8回)</p> <p>3)道路地図帳&lt;オウグルビー道路地図帳1675、ポインティングー図&gt;(第9・10回)</p> <p>III. 中国の地域図ー出土した地域図&lt;馬王堆図&gt;(第11・12回)</p> <p>IV. 世界のさまざまな図&lt;ベドリーナ図、マーシャル群島の海図&gt;(第13・14回)</p> <p>V. 全体のまとめ(第15回)</p>
教科書	織田武雄『地図の歴史 日本篇』、講談社(現代新書) 織田武雄『地図の歴史 世界篇』、講談社(現代新書)
参考書・資料	久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補地図と文化』、地人書房
講義関連事項	幸い、教員に採用された場合、中学社会はおろか、高校地理歴史科でも、地理・日本史・世界史の科目はいずれも担当する可能性があり、その準備をする必要がある。歴史のなかに「地誌」を探る本講義は、その準備も狙っている。そして、教員養成制度は、政府によって再検討の対象とされており、それらの最新情報の提供も、心がけたい。
担当者から一言	文系の学問にとって講義は、学生諸君の自主的な学習を促すきっかけに過ぎず、自ら学ぶ態度こそが重要である。諸君も長年受けてきた授業は、担当する教師として教壇に立ち、中高生を前にした場合、違った様相を見せる。教師としての力量が、生徒に伝わるのである。
その他	携帯電話の電源オフは必須。他人に迷惑をかけない配慮は、社会生活を営む上での最低のマナーである。

授業コード	15L21		
授業科目名	<b>地誌I (A)(前)</b>		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	文学部		
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	<p>世界の生業と文化</p> <p>この授業ではまず、世界各地の自然環境のなかで育まれてきた狩猟採集、牧畜、焼畑などの生業に焦点をあて、その仕組みや近年の変化について考える。さらに、ムギ、ジャガイモ、雑穀、肉類など世界各地で主食となっている作物や畜産物に焦点をあて、それに関わる農耕や食文化について考える。世界各地の伝統的な生業や食文化のありようには、その地域の文化が最も本源的に表れる。この授業で生業や食文化に焦点を当てようとするのはこのためである。</p>
到達目標	自然環境と人間社会の相互作用の中で育まれてきた世界各地の生活様式の特徴を知ること。また、発展途上国農村の抱える問題について基礎的な理解を得ること。
講義方法	板書と配布プリントによる講義形式で進める。理解を深めるために、スライドやビデオも用いる。
準備学習	授業で紹介する参考図書を読んでみて下さい。
成績評価	定期試験(90%)と授業中のレポート課題(10%)により評価する。
講義構成	<p>(1)ガイダンス ~文化と生態系</p> <p>(2)狩猟採集民の捉え方をめぐって</p> <p>(3)牧畜民の暮らし</p> <p>(4)焼畑の生態的合理性</p> <p>(5)焼畑民の暮らしの変化</p> <p>(6)ヨーロッパの混合農業</p> <p>(7)農業革命論について</p> <p>(8)中央アンデス高地のジャガイモ栽培</p> <p>(9)アンデスから世界に渡ったジャガイモ</p> <p>(10)世界の雑穀栽培</p> <p>(11)日本の焼畑と雑穀</p> <p>(12)茶の起源と伝播</p> <p>(13)農業に不可欠な水資源の問題</p>

	(14)まとめ
教科書	特に指定しない。中高で使ったものでいいので、地図帳の持参が望ましい。
参考書・資料	授業中に紹介する。

授業コード	15L22		
授業科目名	<b>地誌I (B)(前)</b>		
担当者名	藤田裕嗣(フジタ ヒロツグ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	他学部		

講義の内容	<p>「地誌」とは、特定の「地域」に関する地理的情報の整理された記述である。それを提示する学問としての「地誌学」(地域地理学)は、地理学において系統地理学(一般地理学)に並ぶ1大分野と評価されてきた。本講義では、これら「地理学」の中に占める「地誌学」の位置づけから始めつつ、「地誌」を個々に記述する方向はとらず、「地誌学」のさらなる研究可能性を歴史のなかに探ってみたい。</p> <p>そのために、まず「地誌」に関する研究史を整理する。その上で、わが国の「地誌」の歩みに関して、とくに古代(風土記)と近世(新編武蔵風土記稿、など)を中心に辿り、その記述内容から再構成しうる当時の「地域」像も提示する。これら前期に扱う「地誌」は、文章で表現され、それを読む方向性が指定されたアナログデータである。</p>
到達目標	カーナビゲーションシステムの普及もあって、地図は日常生活に浸透してきた。高校「地理歴史」で「地理」を担当する場合はもちろんのこと、世界史や日本史の履修でも地図を読む技術は役立つ。地図を読む訓練を通じて、地理的事象に対する基礎的な考え方も身につけられる。
講義方法	講義形式を基本とするが、地図を読む技術を養うには実践が必要であり、そのための実習も適宜、盛り込む。さらに、「地図」自体がグラフィックデータであり、視聴覚教材を最大限に活用する予定である。教科書は、主に後期で使用し、地図における彩色やその他の情報が不足するため、視聴覚教材で補う。
準備学習	日常生活で「地図」に触れたら、意識してみましょう。それが第一歩です。
成績評価	前期末に試験を実施する予定である。 さらに、抜き打ち的にアンケートや課題を課することで、出席も確認し、それを40%に換算する。
講義構成	<p>[前期] I. 地理学と地誌学(第2・3回; 第1回はプロローグ)</p> <p>II. 日本における「地誌」の歩み</p> <p>1) 古代—風土記(第4～7回)</p> <p>2) 近世(第8～13回)</p> <p>III. まとめと後期への展望(第14・15回)</p>
教科書	教科書は、特に指定しない。
参考書・資料	久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補地図と文化』、地人書房
講義関連事項	幸い、教員に採用された場合、中学社会はおろか、高校地理歴史科でも、地理・日本史・世界史の科目はいずれも担当する可能性があり、その準備をする必要がある。歴史のなかに「地誌」を探る本講義は、その準備も狙っている。そして、教員養成制度は、政府によって再検討の対象とされており、それらの最新情報の提供も、心がけたい。後期も連続して履修することが望ましい。

担当者から一言	文系の学問にとって講義は、学生諸君の自主的な学習を促すきっかけに過ぎず、自ら学ぶ態度こそが重要である。諸君も長年受けてきた授業は、担当する教師として教壇に立ち、中高生を前にした場合、違った様相を見せる。教師としての力量が、生徒に伝わるのである。
その他	携帯電話の電源オフは必須。他人に迷惑をかけない配慮は、社会生活を営む上での最低のマナーである。

授業コード	15L31		
授業科目名	<b>地誌II (A)(後)</b>		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

特記事項	文学部
オフィスアワー	火曜2限
講義の内容	<p>日本地誌の諸問題</p> <p>この授業ではまず、日本の自然、社会、文化の特徴を諸外国と比較しつつ説明したい。次に、特に農村部に焦点をあて、農林業の低迷や過疎・高齢化といった問題をそれが発生した経緯とともに概説する。さらに、グローバルゼーションの中での日本へのヒトやモノの移動と、それをめぐる諸問題について考察したい。</p>
到達目標	日本の自然の特徴とその中で育まれてきた生業や社会関係の特徴について基礎的な理解を得ること。さらに、現在の地方や農村の抱える問題について理解を深めること。
講義方法	板書と配布資料を用いた講義形式。必要に応じて、スライドやビデオを用い、理解を深めたい。
準備学習	授業で紹介する参考図書を読んでみて下さい。
成績評価	定期試験(90%)と授業中の課題(10%)により評価する。
講義構成	<p>(1) 日本の平野の特徴</p> <p>(2) 水田開発の展開—新潟平野を事例に</p> <p>(3) 里山景観の変化</p> <p>(4) 山村での暮らし—ゼンマイ採集に注目して</p> <p>(5) 山の神と日本人</p> <p>(6) 日本の村落社会の特徴</p> <p>(7) 戦後日本の地域構造と地域政策</p> <p>(8) 食料自給率の低下と日本の農業</p> <p>(9) 日本の森林と林業</p> <p>(10) 過疎問題と限界集落</p> <p>(11) 日本の中の外国人</p>
教科書	特に指定しない。中高で用いたものでよいので、地図帳の持参が望ましい。
参考書・資料	<p>柏久2005『環境形成と農業—新しい農業政策の理念を求めて』昭和堂。</p> <p>大野晃2005『山村環境社会学序説—現代山村の限界集落化と流域共同管理—』農山漁村文化協会。授業中にも紹介する。</p>

授業コード	15L33		
授業科目名	<b>地誌II(B)(後)</b>		
担当者名	藤田裕嗣(フジタ ヒロツグ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	他学部		

講義の内容	<p>「地誌」とは、特定の「地域」に関する地理的情報の整理された記述である。それを提示する学問としての「地誌学」(地域地理学)は、地理学において系統地理学(一般地理学)に並ぶ1大分野と評価されてきた。本講義では、これら「地理学」の中に占める「地誌学」の位置づけから始めつつ、「地誌」を個々に記述する方向はとらず、「地誌学」のさらなる研究可能性を歴史のなかに探ってみたい。</p> <p>後期は古地図を取り上げる。古地図に描かれた建物や道といった要素(画像、記号)は、相互の位置関係に従って配置されている。そして、それらの要素を読む順序が予め明示されていないという意味で、デジタルデータと言える。そのような性格を持つ古地図の中に描き込まれた「地域」像を解読する。前期との連続性から、日本中近世の地域図から始め、ヨーロッパにおける近代地図帳、さらにはそれ以外の文化圏で作成された古地図、の順に検討し、世界へと目を広げる。最後に、前期で取り上げた文章としての「地誌」と比較する。</p>
到達目標	カーナビゲーションシステムの普及もあって、地図は日常生活に浸透してきた。高校「地理歴史」で「地理」を担当する場合はもちろんのこと、世界史や日本史の履修でも地図を読む技術は役立つ。地図を読む訓練を通じて、地理的事象に対する基礎的な考え方も身につけられる。
講義方法	講義形式を基本とするが、地図を読む技術を養うには実践が必要であり、そのための実習も適宜、盛り込む。さらに、「地図」自体がグラフィックデータであり、視聴覚教材を最大限に活用する予定である。教科書は、主に後期で使用し、地図における彩色やその他の情報が不足するため、視聴覚教材で補う。
準備学習	日常生活で「地図」に触れたら、意識してみましょう。それが第一歩です。
成績評価	期末に実施する試験で60%、さらに、抜き打ち的にアンケートや課題を課することで、出席も確認し、40%に換算する。

講義構成	<p>まず日本中近世の地域図を紹介した後(Ⅰ)、16世紀から17世紀にかけて相次いで登場したヨーロッパにおける近代地図帳について、「地域」に着目して論じる(Ⅱ)。最後に、中国など、それ以外の文化圏で作成された古地図を取り上げる(Ⅲ、Ⅳ)。主な地図(ないしはジャンル)名を下の&lt; &gt;内に示した。</p> <p>Ⅰ. 日本の地域図</p> <p>1)生活空間(身近な領域)を描いた地図&lt;古代の開田図、中世の荘園絵図&gt;(第1~3回)</p> <p>2)さまざまな領域図&lt;道中図、川絵図;近世町絵図&gt;(第4~6回)</p> <p>Ⅱ. ヨーロッパにおける近代地図帳</p> <p>1)世界地図帳&lt;オルテリウス『世界の舞台』1570、日本図を含めた各図「地域」&gt;(第7回)</p> <p>2)都市地図帳&lt;ブラウンとホーヘンベルク『世界都市図帳』1572&gt;(第8回)</p> <p>3)道路地図帳&lt;オウグルビー道路地図帳1675、ポインティンガー図&gt;(第9・10回)</p> <p>Ⅲ. 中国の地域図—出土した地域図&lt;馬王堆図&gt;(第11・12回)</p> <p>Ⅳ. 世界のさまざまな図&lt;ベドリーナ図、マーシャル群島の海図&gt;(第13・14回)</p> <p>Ⅴ. 全体のまとめ(第15回)</p>
教科書	<p>織田武雄『地図の歴史 日本篇』、講談社(現代新書)</p> <p>織田武雄『地図の歴史 世界篇』、講談社(現代新書)</p>
参考書・資料	久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補地図と文化』、地人書房
講義関連事項	幸い、教員に採用された場合、中学社会はおろか、高校地理歴史科でも、地理・日本史・世界史の科目はいずれも担当する可能性があり、その準備をする必要がある。歴史のなかに「地誌」を探る本講義は、その準備も狙っている。そして、教員養成制度は、政府によって再検討の対象とされており、それらの最新情報の提供も、心がけたい。
担当者から一言	文系の学問にとって講義は、学生諸君の自主的な学習を促すきっかけに過ぎず、自ら学ぶ態度こそが重要である。諸君も長年受けてきた授業は、担当する教師として教壇に立ち、中高生を前にした場合、違った様相を見せる。教師としての力量が、生徒に伝わるのである。
その他	携帯電話の電源オフは必須。他人に迷惑をかけない配慮は、社会生活を営む上での最低のマナーである。

授業コード	15049		
授業科目名	<b>地図学(前)</b>		
担当者名	波江彰彦(ナミエ アキヒコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	事前登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	<p>(1限)地理情報システム(GIS)の基本的な知識・技法を学び、また、GISの初歩的な操作を体験する。GISとは、デジタル化された地理情報と各種データベースが結合されたシステムであり、空間分析を行うツールとして利用されている。専門的ツールの域を超えて、近年では手軽にGISを体験できるツールやサービスが提供されている。現在、誰もが「使える」道具となりつつあるGISの基本を習得し、さらにそこから、GISのさまざまな利用事例を知り、社会におけるGISの生かし方について考えることにつなげたい。</p> <p>(2限)演習形式で地理情報システム(GIS)の基本的な操作を学ぶ。まず、GISを使っていく上で必要となる基本的な知識や技法を体得する。そして、個人あるいはグループによる作業を通じて、身近な地域の主題図(階級区分図・分布マップなど)を完成させる。</p>
到達目標	GISの基本的な知識・技法を体得し、それらを生かして身近な地域の主題図を作成することができる。
講義方法	<p>(1限)講義形式を主体とする(総授業時間の70%)。資料・プリントを配付し、パワーポイントを用いて講義内容を説明・提示する。また、コンピュータを使用した演習も行う(総授業時間の30%)。</p> <p>(2限)コンピュータを用いた演習形式である。個人作業・グループ作業の両方を予定している。インターネットも活用する。</p>
準備学習	My KONANを使って授業連絡、資料配付、質問受付、課題提出などを行うので、授業の前後に必ずチェックすること。
成績評価	個人作業によるレポート、グループ作業によるレポートおよびプレゼンテーションの内容によって評価する。出席状況や授業への取り組み態度も重視する。また、授業中の(あるいは授業後に課す)課題や小レポートも参考にする。
講義構成	<p>(1限)</p> <p>第1回:授業のガイダンス</p> <p>第2~3回:GISとはどういうものか、何ができるのか</p> <p>第4~5回:GISデータの種類と加工</p>

	<p>第6～8回:GISの分析技法と表現(重ね合わせ、バッファ、階級区分図、3次元表現など)  第9～11回:個人作業(GISソフトを用いた課題作成)  第12～13回:GISの利用とトレンド(行政・商用・環境GIS、ウェブGIS、FOSS4Gなど)  第14回:まとめ</p> <p>(2限)  第1回:授業のガイダンス  第2～4回:GISデータの入手と加工  第5～6回:個人作業(GISを用いた統計地図作成)  第7～9回:重ね合わせ分析、点データ作成、バッファ生成  第10～13回:グループ作業(GISを用いた地域分析)  第14回:グループ作業の成果のプレゼンテーション、講評</p>
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	後藤真太郎・谷 謙二・酒井聡一・加藤一郎(2007)『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座—フリーソフトでここまで地図化できる—』古今書院。 そのほか、授業中に適宜配付・紹介する。

授業コード	15018		
授業科目名	<b>地理学の諸問題</b>		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
オフィスアワー	【後期】火曜2限(担当:中辻)		

講義の内容	<p>【前期】前半では、高校での教科書を参考にしながら、人文地理学史の概説に触れ、その方法論的な枠組みの基本を理解する。後半では、基本的なツールのひとつである地図を用いて、様々な地域の変化を学ぶ。(担当:鳴海)</p> <p>【後期】後半では、東南アジアを事例に、地理学が取り組んできた諸テーマを論ずることを主眼とする。東南アジアは一見日本と似た点も多いが、異なった特徴を持っている。講義ではまず、東南アジアを自然環境とそこで育まれてきた生活様式、さらに歴史の面から捉え、日本や世界の他地域との比較のなかでその特性を明らかにする。さらに、現在この地域が抱える民族、貧困、環境などの問題についても注目したい。(担当:中辻)</p>
到達目標	<p>【前期】人文地理学の基本とその関心のあり方を理解する。</p> <p>【後期】東南アジアの特徴を自然、社会、文化、歴史など多様な側面から理解すること。また、地理学的なものの見方の基礎を養うこと。(担当:中辻)</p>
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	<p>成績は前期50%、後期50%の合計で評価する。</p> <p>【前期】期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする(担当:鳴海)</p> <p>【後期】期末試験(70%)、出席(15%)、レポート課題(15%)で評価する。(担当:中辻)</p>
講義構成	<p>【前期】(担当:鳴海)</p> <p>(1)ガイダンス:この講義の紹介  (2)地理学の考え方:①地理学の伝統、②近代地理学の成立、③様々な地理学  (3)地図の基本:①様々な地図、②地図の記号と表現、③地図の利用  (4)古地図で読む景観の変化:①昔の景観を知ること、②都市の開発と発展、③自然の荒廃  (5)まとめ</p> <p>【後期】(担当:中辻)</p> <p>(1)イントロダクション  (2)自然と生活様式から見た風土区分  (3)多様な民族と民族間関係  (4)多様な稲作  (5)熱帯林と森林破壊  (6)海上交易と都市  (7)東南アジア諸国の工業化  (8)都市化と都市問題</p>

教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。高校などで使った地図帳を持参することが望ましい。

授業コード	15019		
授業科目名	<b>地理学の諸問題I (前)</b>		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	人文地理学は、幅広い研究の領域を持つ学問である。その特徴は、人と空間の関わりをみる学問といえる。まず前半では、高校での教科書を参考にしながら、人文地理学史の概説に触れ、その方法論的な枠組みの基本を理解する。後半では、基本的なツールのひとつである地図を用いて、様々な地域の変化を学ぶ。		
到達目標	人文地理学的な視点から「地域」をとらえる見方を学ぶことを目標とする。		
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。		
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。		
成績評価	期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。		
講義構成	(0)ガイダンス:この講義の紹介 (1)地理学の考え方:①地理学の伝統、②近代地理学の成立、③様々な地理学 (2)地図の基本:①様々な地図とその歴史、②地図の記号と表現、③地図の利用 (3)古地図で読む景観の変化:①昔の景観を知ること、②都市の開発と発展、③自然の荒廃 (4)まとめ		
教科書	特定の教科書は指定しない。		

授業コード	15020		
授業科目名	<b>地理学の諸問題II (後)</b>		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	「地理学の諸問題～東南アジアを事例に」 本講義では東南アジアを事例に、地理学が取り組んできた諸テーマを論ずることを主眼とする。東南アジアは一見日本と似ているが、異なった特徴を持っている。講義ではまず、東南アジアを自然環境とそこで育まれてきた生活様式、さらに歴史の面から捉え、日本や世界の他地域との比較の中で、その特性を明らかにする。さらに、現在この地域が抱える民族、貧困、環境などの問題についても注目したい。		
到達目標	東南アジアの特徴を自然、社会、文化、歴史など多様な側面から理解すること。また、地理学的なものの見方の基礎を養うこと。		
講義方法	板書と配布プリントが中心であるが、スライドやビデオなども用いる。		
準備学習	授業で紹介する参考図書を読むこと。また、新聞の国際面に毎日目を通すこと。		
成績評価	定期試験(70%)、出席(15%)、レポート(15%)		
講義構成	(1)イントロダクション (2)自然と生活様式から見た風土区分 (3)多様な民族と民族間関係 (4)多様な稲作 (5)熱帯林と森林破壊 (6)海上交易と都市		

	(7) 東南アジア諸国の工業化 (8) 都市化と都市問題
教科書	特に指定しない。ただし、地図帳を持参すること。
参考書・資料	藤巻正己・瀬川真平編『現代東南アジア入門』(古今書院, 2003)。 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア—風土・生態・環境』(弘文堂, 1997)。 山田勇編『森と人の対話—熱帯からみる世界』(人文書院, 1996)。 渡部忠世編『稲のアジア史(全3巻)』(小学館, 1987)。 石井米雄・桜井由躬雄『ヴィジュアル版世界の歴史12 東南アジア世界の形成』(講談社, 1985)。

授業コード	15054		
授業科目名	<b>地理学・民俗学資料研究I(前)</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	みずからが実地にあるき、調査研究した一次資料を提示しながら、資料のもつ記録性、学術的社会的価値について、考える。フィールドの現場にたつて、「現代を記録する」ことのたいせつさ、「現代の資料をみずからつくる」方法を実践的に学ぶ。
到達目標	既存の資料をさがすのではなく、みずからの手で資料化されていないものに形をあたえることが目標です。
講義方法	映像をみたり、祭りを見たり、町に出たり、自分で経験していることを形あるものにするにはどうするか、それを五感を働かせて、人のしていること、考え、行動に、関心をはらいながら、対話形式で知恵をだしあう授業にする。グループワーク、発表もとりたい。
準備学習	真剣にむきあえるテーマをひとつ見つけよう。外からはいつてくるものをどんどんとりこもう。この講義をここだけで終わらせない。アンテナをはってつなげる思考回路をつくること、それが準備学習だ。
成績評価	授業中の小レポート、ならびに定期試験にかわるレポートで評価。
講義構成	1 民俗・地理学とフィールドワーク 2 現場をあるく・見る・現代を記録する 3 地理学、民俗学における映像や聞き取り・観察記録の資料性 4 未来創造のための記録 5 瀬戸内海・島・川・湖: その他私のアーカイブから
教科書	一冊に限定しない。
参考書・資料	適宜必要に応じて授業中に提示する。

担当者から一言	野外が教室、フットワーク軽く、町にしよう。
---------	-----------------------

授業コード	15055		
授業科目名	<b>地理学・民俗学資料研究II(後)</b>		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	この講義では、文献資料の探し方、史料調査の手法、調査報告の仕方について、実際に作業を通して学ぶことを予定している。
到達目標	人文地理学(特に歴史地理学)関わる調査をすすめていくうえで、必要となる調査手法を身につけることを目的とする。その過程で対象となる資料や素材の理解を深めることを期待する。

講義方法	それぞれの課題に応じて実際に作業する。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	課題毎のレポートによって評価する。また、出席も定期的に確認し参考にする。
講義構成	(1)ガイダンス: 調査を行うにあたって (2)文献資料の探し方: 図書館の利用、インターネットの活用 (3)史料調査の方法: 調書のためのカードの作成、資料撮影の方法 (4)地図の表現: 自分の地図を作る (5)調査報告の仕方: プレゼンテーションの手法、展示の作製 (6)まとめ: 講評
教科書	特定の教科書は指定しない。

授業コード	15056		
授業科目名	<b>地理学・民俗学資料研究Ⅲ(集中)</b>		
担当者名	波江彰彦(ナミエ アキヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	事前登録 履修条件あり、履修要項参照のこと		

講義の内容	地理情報システム(GIS)の実践的利用を演習形式で行う。近年、GISの開発と利用が進み、フリーで利用できるGISソフトウェア・ツール・サービスが数多く登場し、これらを使って相当レベルの分析や地図表現が可能となった。その一方で、行政・商用・教育などの多方面においてGISの活用例は増加し、ウェブ上で公開されるGISのさまざまな成果を容易に入手できるようになった。今後、仕事や社会活動においてGISを利用する機会がますます増加すると考えられる。授業において受講生はいくつかの課題に取り組む。これらの取り組みを通じて、パワファ生成、重ね合わせ分析、ネットワーク分析、GPSデータの取得・利用、3次元表現・分析といったGISによる実践的な分析を体得する。
到達目標	GISの利用を前提とした課題を立案し、GISによる実践的な分析を通じて成果をあげることができる。
講義方法	コンピュータを用いた演習形式である。グループ作業を予定している。野外実習も考えている。資料・プリントを配付し、パワーポイントを用いて講義内容を説明・提示する。インターネットも活用する。
準備学習	「地理と情報I」・「地理と情報II」の履修を通じて、GISの知識・技法をある程度身につけていることが望ましい。
成績評価	課題の成果とプレゼンテーションの内容によって評価する。また、全授業への出席を原則とする。授業への取り組み態度も重視する。
講義構成	第1回: 授業のガイダンス 第2～6回: 課題1の作業(ハザードマップ・文化財マップの作成: GPSの利用) 第7回: 課題1のプレゼンテーション、講評 第8～12回: 課題2の作業(日常行動の時間地理学的分析) 第13回: 課題2のプレゼンテーション、講評 第14回: 最終講評、課題の成果公開に向けて  作業の進行状況や受講生の関心に応じて講義構成を変更することもある。
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	授業中に適宜配付・紹介する。
講義関連事項	「GIS学術士」の資格認定科目である。

授業コード	15050		
授業科目名	<b>地理と情報I(前)</b>		
担当者名	波江彰彦(ナミエ アキヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	地理情報システム(GIS)の基本的な知識・技法を学び、また、GISの初歩的な操作を体験する。GISとは、デジタル化された地理情報と各種データベースが結合されたシステムであり、空間分析を行うツールとして利用されている。専門的ツールの域を超えて、近年では手軽にGISを体験できるツールやサービスが提供されている。現在、誰もが「使える」道具となりつつあるGISの基本を習得し、さらにそこから、GISのさまざまな利用事例を知り、社会におけるGISの生かし方について考えることにつなげたい。
到達目標	GISの基本的な知識・技法を習得し、初歩的な操作ができる。
講義方法	講義形式を主体とする(総授業時間の70%)。資料・プリントを配付し、パワーポイントを用いて講義内容を説明・提示する。また、コンピュータを使用した演習も行う(総授業時間の30%)。
準備学習	My KONANを使って授業連絡、資料配付、質問受付、課題提出などを行うので、授業の前後に必ずチェックすること。
成績評価	期末レポートによって評価する。また、授業中の(あるいは授業後に課す)課題や小レポート、出席も参考にする。
講義構成	第1回: 授業のガイダンス 第2～3回: GISとはどういうものか、何ができるのか 第4～5回: GISデータの種類と加工 第6～8回: GISの分析技法と表現(重ね合わせ、バッファ、階級区分図、3次元表現など) 第9～11回: 個人作業(GISソフトを用いた課題作成) 第12～13回: GISの利用とトレンド(行政・商用・環境GIS、ウェブGIS、FOSS4Gなど) 第14回: まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	後藤真太郎・谷 謙二・酒井聡一・加藤一郎(2007)『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座—フリーソフトでここまで地図化できる—』古今書院。 そのほか、授業中に適宜配付・紹介する。
講義関連事項	「GIS学術士」の資格認定科目である。「地理と情報II」は、この授業と関連する科目である。

授業コード	15051		
授業科目名	<b>地理と情報II(前)</b>		
担当者名	波江彰彦(ナミエ アキヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	事前登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	演習形式で地理情報システム(GIS)の基本的な操作を学ぶ。GISとは、デジタル化された地理情報と各種データベースが結合されたシステムであり、空間分析を行うツールとして利用されている。専門的ツールの域を超えて、近年では手軽にGISを体験できるツールやサービスが提供されている。この授業では、そのようなツールやサービスを利用して、まずGISを使っていく上で必要となる基本的な知識や技法を体得する。そして、個人あるいはグループによる作業を通じて、身近な地域の主題図(階級区分図・分布マップなど)を完成させる。
到達目標	GISの基本的な知識・技法を体得し、それらを生かして身近な地域の主題図を作成することができる。
講義方法	コンピュータを用いた演習形式である。個人作業・グループ作業の両方を予定している。資料・プリントを配付し、パワーポイントを用いて講義内容を説明・提示する。インターネットも活用する。
準備学習	「地理と情報I」もあわせて受講することが望ましい。My KONANを使って授業連絡、資料配付、質問受付、課題提出などを行うので、授業の前後に必ずチェックすること。
成績評価	個人作業によるレポート、グループ作業によるレポートおよびプレゼンテーションの内容によって評価する。出席状況や授業への取り組み態度も重視する。
講義構成	第1回: 授業のガイダンス 第2～4回: GISデータの入手と加工 第5～6回: 個人作業(GISを用いた統計地図作成) 第7～9回: 重ね合わせ分析、点データ作成、バッファ生成 第10～13回: グループ作業(GISを用いた地域分析) 第14回: グループ作業の成果のプレゼンテーション、講評
教科書	特に指定しない。

参考書・資料	後藤真太郎・谷 謙二・酒井聡一・加藤一郎(2007)『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座—フリーソフトでここまで地図化 できる—』古今書院。 そのほか、授業中に適宜配付・紹介する。
講義関連事項	「GIS学術士」の資格認定科目である。

授業コード	15003		
授業科目名	<b>日本学(4単位)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、稲田清一(イナダ セイイチ)、合田昌史(ゴウダ マサフミ)、出口晶子(デグチ アキコ)、東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)、中辻 享(ナカツジ ススム)、中町信孝(ナカマチ ノブタカ)、横山 良(ヨコヤマ リョウ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)、鎌谷かおる(カマタニ カオル)、木場貴俊(キバ タカトシ)、河野未央(コウノ ミオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
オフィスアワー	前期:木曜昼休み(佐藤) 後期:木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	<p><b>【前期】</b> 歴史文化学科における各専門領域への導入として、色々な視点、様々な立場から、日本および日本の諸地域、日本と世界の関わりなどを講義する。日常的には自明と思っている日本を意識的に取り上げて問題関心を養うとともに、各専門領域を紹介する役割を持たせる。</p> <p><b>【後期】</b> 本講義では、地域の歴史と文化を知ることにより、地域の視点から日本を考えることを目的とします。江戸時代から幕末維新期の阪神間の文化的諸相について取り上げ、学内講義とフィールドワークで学ぶことにより、理解を深めたい。</p>
到達目標	日本をめぐる様々な研究領域について知見を得る。
講義方法	リレー講義形式で実施する。
準備学習	必要に応じて各担当者から指示する。
成績評価	出席およびレポートによる評価(詳しくは初回講義時に説明する)。
講義構成	<p><b>【前期】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス</li> <li>佐藤泰弘「歴史学の観点、日本史の視点」</li> <li>様々な視点からの話題提供 稲田清一・合田昌史・出口晶子・鳴海邦匡・中辻 享・中町信孝・横山 良</li> <li>まとめ</li> </ol> <p><b>【後期】</b></p> <p>◎学内講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス(鳴海)</li> <li>・兵庫津と海運ネットワーク(河野)</li> <li>・阪神間の酒造と文化的ネットワーク(鎌谷)</li> <li>・開港と神戸の遊廓(人見)</li> <li>・阪神間の怪異文化(木場)</li> <li>・まとめ(東谷)</li> </ul> <p>* 講義順と日程は後期の初回に指示します</p> <p>◎学外講義(集中講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内講義で取り上げた場所でのフィールドワーク</li> </ul> <p>* 学外講義の日程など詳細は講義中に指示します。</p>
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。

講義関連事項	なし
--------	----

その他	講義は前期は火曜日3限目、後期は火曜日3限目＋集中講義となっています。注意してください。
-----	----------------------------------------------

授業コード	15004		
授業科目名	日本学(2単位)(前)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、稲田清一(イナダ セイイチ)、合田昌史(ゴウダ マサフミ)、出口晶子(デグチ アキコ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)、中辻 享(ナカツジ ススム)、中町信孝(ナカマチ ノブタカ)、横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	火曜2限(鳴海)		

講義の内容	歴史文化学科における各専門領域への導入として、色々な視点、様々な立場から、日本および日本の諸地域、日本と世界の関わりなどを講義する。日常的には自明と思っている日本を意識的に取り上げて問題関心を養うとともに、各専門領域を紹介する役割を持たせる。
到達目標	日本をめぐる様々な研究領域について知見を得る。
講義方法	リレー講義形式で実施する。
準備学習	必要に応じて各担当者から指示する。
成績評価	出席およびレポートによる評価(詳しくは初回講義時に説明する)。
講義構成	1. ガイダンス 2. 佐藤泰弘「歴史学の観点、日本史の視点」 3. 様々な視点からの話題提供 稲田清一・合田昌史・出口晶子・鳴海邦匡・中辻 享・中町信孝・横山 良 4. まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。
講義関連事項	なし

担当者から一言	歴史文化学科は様々な専門領域の教員がいます。2年生で演習(ゼミ)を決める際までに、教員の専門領域について知っておく必要があります。ゼミ選択のためにもしっかりと受講してください。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	15N21		
授業科目名	日本史I(A)(後)		
担当者名	三村昌司(ミムラ ショウジ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	日本の明治前期の地方政治史についての講義を行います。  高校までの日本史の教科書では、歴史の舞台となるのは東京(中央)が中心でした。しかしそれは、歴史の一面でしかありません。そこで、この講義では、地方を舞台として、歴史を描きなおしてみようことをめざします。  とはいえ、単なる「地方の歴史」とどまらず、それが日本全体の動きとどのように関係していたのか、という点をつねに考えていきたいと思っています。 なお、扱う地域は甲南大学のある兵庫県です。とくに神戸・三田・淡路・姫路などを取り上げていく予定です。
到達目標	(1)歴史に対する理解 近代日本形成の歴史的過程について理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な社会の一員として必要な自覚と資質を養うことをめざします。  (2)プロセスの重視

	結果や結論だけを求めるのではなく、そこに至る過程を重視する視野の獲得をめざします。
講義方法	黒板がわりにパワーポイントを使用する予定です。ただし、黒板がわりですので、データを出力したものは最初に配布しません。パワーポイントのデータは、授業の中盤と終わりの時期の2度にわけて、MY KONANで公開します。  また必要に応じて資料を配布します。時折課題を課すこともあります。
準備学習	とくにありません。
成績評価	試験70%、出席(および課題)30%。
講義構成	(1) 兵庫県の成立 — 兵庫県はいつできたか？ (2) 居留地の成立 — 三宮の南にある「居留地」の歴史を知っていますか？ (3) 「大区小区制」の展開 — 兵庫県三田市の一地域を事例に (4) 三新法の隠された意図 — 公式には出ない「隠された意図」を見抜く (5) 歴史研究はどうやってなされるか？ — 資料の発見・救出、くずし字を読む
教科書	とくにありません。適宜参考文献を紹介します。
担当者から一言	明治時代の兵庫県の話をおもにしますが、加えて「歴史って勉強する意味あるの？」という問題にも触れていきたいと思っています。高校までの「暗記もの」とは違う、歴史学の面白さに触れてもらえればと思います。

授業コード	15N22		
授業科目名	日本史I(B)(前)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	木曜日の昼休み。		

講義の内容	「平安・鎌倉時代の紛争と社会」 平安・鎌倉時代における様々な紛争や裁判の事例を具体的に検討し、当該期の社会の特質を考える。
到達目標	当該テーマについて基本的な知見を得る
講義方法	配付資料を用いた講義。
準備学習	平安・鎌倉時代の概論、もしくは高校教科書レベルの概説書を読んでおくこと。
成績評価	レポートと期末試験とを予定(詳しくは講義最初に伝える)
講義構成	1. 土地所有をめぐる紛争 2. 財産の相続をめぐる紛争 (講義構成は変更することがあります)
教科書	なし。
参考書・資料	講義時に指示します。
講義関連事項	古文書学

授業コード	15N31		
授業科目名	日本史II(A)(前)		
担当者名	村井良介(ムライ リョウスケ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	この講義では、おもに戦国大名を取りあげ、戦国期社会の特質について考える。また、そこから、権力とは何か、権力をどう考えるべきかという普遍的問題への視点を示す。 戦国時代は、中世から近世へという、日本史上の大きな転換点として注目されてきた。戦国時代を知ることは、日本の中世を知るためにも、近世を知るためにも重要であるが、同時に戦国時代という時代に固有の特質も考える必要がある。この講義では、戦国大名を取りあげ、権力論の視点から、それに迫る。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

到達目標	個別の知識や用語を憶えることも必要ではあるが、この講義では、たとえば戦国大名をめぐる学説が、どのような考え方にに基づき、どのような筋道で論じられているのか。あるいは、戦国時代を見ることを通して、権力というものをどう考えていけばいいのかなど、考え方や歴史の見方を身につけることを目標とする。
講義方法	適宜プリントを配布して、それに沿って講義をおこなう。
準備学習	参考文献は、比較的読みやすい、一般読者向けものを挙げておいたので、積極的に目を通しておくことが望ましい。
成績評価	定期試験(100%)
講義構成	第1回 概要の説明 第2回 戦国時代はどのような時代か 第3回 転換期としての戦国時代(1) 第4回 転換期としての戦国時代(2) 第5回 戦争から平和へ 自力救済の問題 第6回 戦国時代は中世か？近世か？(1) 第7回 戦国時代は中世か？近世か？(2) 第8回 戦国大名概念は不要か？ 第9回 戦国大名概念は不要か？ 第10回 戦国大名と豊臣の平和(1) 第11回 戦国大名と豊臣の平和(2) 第12回 戦国大名と「戦国領主」(1) 第13回 戦国大名と「戦国領主」(2) 第14回 権力論から考える戦国社会の特質 第15回 試験
教科書	使用しない。
参考書・資料	久留島典子編『日本の歴史13 一揆と戦国大名』(講談社、2001年) 矢田俊文『上杉謙信』(ミネルヴァ書房、2005年) 池享『日本中世の歴史6 戦国大名と一揆』(吉川弘文館、2009年)
その他	私語は周りの学生の迷惑になるので慎むこと。また、授業中、正当な理由なく教室を出入りしないこと。

授業コード	15N32		
授業科目名	日本史II (B)(前)		
担当者名	志村 洋(シムラ ヒロシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	百姓身分・村落社会の問題を中心に、高校日本史レベルでは紹介されることのない、戦後近世史の著名な学説を解説し、あわせてトピック的な話題を紹介する。 高校日本史の教科書に書かれている何気ない一文にも、その背後には実に多くの論争や多様な実態がよこたわっている。本講義では、そうした一言では処理、解決しきれない近世史の専門的内容にも目を向けることで、歴史学が考える学問、変化する学問であることを知ってもらいたい。
到達目標	「歴史」を複眼的に捉える視点を獲得する。歴史学を、過去の物語や道徳訓としてではなく、現実社会の諸問題に目を向ける学問的営みのひとつであることを理解する。
講義方法	講義方式で行う。必要に応じてプリントを配布する。授業中、受講生に感想文を求めたり、質問する場合がある。
準備学習	高校日本史Bの近世史部分は一読しておくこと。 読み下されていない史料も授業中用いるので、初歩的な漢文の読み方(レ点や一、二点などの返り点の用法)に慣れておくこと。
成績評価	原則として定期試験(参考書・ノート類の持ち込みは不可)で評価する。ただし必要に応じて、受講態度(注:出席回数ではない)も成績評価に加味する。
講義構成	1. オリエンテーション 2. 近世社会の基本的しくみと史料 3. 太閤検地と小農自立(研究史1) 4. 近世後期の豪農と半プロレタリアート(研究史2) 5. 兵営国家論と国奉行論(研究史3) 6. 慶安の触書について(各論1)

	7, 生類憐れみ令について(各論2) 8, 町場下層民の世界について(各論3)
教科書	特に指定しない。
講義関連事項	1, 大幅な遅刻入室(授業開始後30分以降)と、途中退出を禁じます(ただし、しかるべき事情によって事前に申し出があった場合は例外)。 2, 授業中、出欠は原則取らない。 3, 講義は近世史の専門的内容に言及します。安易な考えや態度での受講は後悔することになりますので、注意して下さい。

授業コード	15015		
授業科目名	<b>日本史の諸問題</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「平安時代の貴族社会の研究」 平安時代の貴族社会を主たる論点としながら、日本の古代・中世史の研究について考える。		
到達目標	日本史を学ぶための基本的な方法を身につける。		
講義方法	配付資料を用いた講義		
準備学習	指定した教科書や参考文献を読むこと。		
成績評価	レポート(3～5回)、および期末試験を予定しています。 レポートの未提出および試験の欠席は「欠席」として評価します。		
講義構成	1:政治の仕組み 2:平安京 3:儀式 4:貴族社会を支えるもの 5:貴族社会の特質 (講義構成は変更することがあります)		
教科書	最初の講義で指定します。		
参考書・資料	吉川真司編『日本の時代史5平安京』		
講義関連事項	日本文化史		
担当者から一言	1年生から受講できる科目なので、色々な研究スタイルや研究方法を紹介したいと思います。		

授業コード	15022		
授業科目名	<b>日本文化史(後)</b>		
担当者名	東谷 智(ヒガシタニ サトシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	地域の文化を学ぶことにより、日本の文化について知見を深めることを目的とする。		
到達目標	文化の地域差について理解する。		
講義方法	基本的に講義形式で行いますが、必要に応じてフィールドワークとして大学近辺に出かけます。文献を読むのではなく、出来るだけ五感を通して文化を感じ取ってみたいと思います。 また、絵画資料や絵図資料も随時用いていきます。		
準備学習	講義中に指示する。		

成績評価	後期末にレポートを課す他、講義中のミニレポートを加味して評価します。講義を聴いてノートを取るだけではなく、自ら積極的に動いてもらうことが高評価につながります。
講義構成	◎文化の違いと比較 一東と西の文化史 ・食文化の比較 ・建物と生活 ・地名の比較 ◎大学近辺の文化財
教科書	用いない。必要に応じてプリントを配付する。
参考書・資料	講義中に指示する。
担当者から一言	机の上で学ぶよりも現場に出てみましょう。身近なところに文化を考える素材があるものです。

授業コード	15063		
授業科目名	<b>博物館概論(前)</b>		
担当者名	村田隆志(ムラタ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	博物館とは何なのか、学芸員とはどのような職業で、どのような能力が求められるのか、学芸員資格取得の前提となる基礎的な知識を養うことを目的とする。また、講義中に課すこにちの博物館に関する問題についてのディベートや、課題である作品解説の執筆などの模擬的な実務経験を通じて、博物館と学芸員に関する理解を深める。
到達目標	1. 博物館という施設についての歴史的経緯と現状を理解する。 2. 学芸員という職種について、「博物館法」に定められている職務を理解し、それぞれについて実務を行う前提となる基礎的な知識を習得する。 3. 現代の博物館に関する問題について講義中に行うディベートやプレゼンテーションにより、博物館について考察を深めるとともに、論理的に他者に自身の考えを伝える能力を養う。
講義方法	主として博物館と学芸員に関する講義形式を採る。開講期間中、一度は実際に学内外の博物館施設での見学(詳細は講義中、またMy KONANで案内する)の機会を設ける。ほか、講義室で実際の資料(掛軸・画帖など)を用いて取扱の実習を行う場合もある。 また、受講生を何組かのグループに分けてのディベート・プレゼンテーションを数回試みる。参加実績が単位取得にとって不可欠の要件となるので、必ず参加すること。詳細は講義中に適宜指示する。
準備学習	本科目で課すレポートやディベートは、受講者が博物館での鑑賞経験を豊富に有していることが前提となる。このため、各自が平日頃から様々な形で博物館に親しんでおくことが望まれる。
成績評価	レポート(30%)と、講義中のディベート・プレゼンテーションでの成績・貢献度(30%)、学期末のキャプション(作品解説)課題(40%)で総合的に評価します。
講義構成	1.イントロダクション 2.博物館・展覧会・学芸員の歴史と現状 3.学内外博物館施設見学 4.資料の収集 寄贈・購入・真贋 5.資料の保管 環境・損傷の原因と回避・修復 6.レポート講評とディベート1 7.レポート講評とディベート2 8.レポート講評とディベート3 9.学芸員の研究の手法 10.展示の実際 作品の取り扱い 11.プレスリリース・キャプションの執筆法 12.教育普及の精神と企画、運営 13.プレゼンテーション1 14.プレゼンテーション2 15.レポート総評と総括  ※内容については講義の進捗状況、展覧会見学などの都合上、変更する場合がある。
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	中村興二・岸文和編『日本美術を学ぶ人のために』(世界思想社、2001年)ほか。講義中に随時紹介を行う。

担当者から一言	日本の学芸員に求められる能力は多種多様です。学会に新知見を問う第一線の研究者として活躍すること、来館した小学生の素朴な質問に答えること、業者と交渉して価値ある資料を購入すること、破損した資料をどのように修復するののかの方針を定めること、訴求力のあるキャッチコピーや、ポスターデザインを決定して来館者を増やすこと……など、全てに対応することが学芸員には求められます。本科目で学ぶことによって、これらの様々な能力の基礎を養い、それぞれの人生に活かしてください。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	15R11		
授業科目名	<b>博物館学I (A)(前・集中)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、辻 智美(ツジ サトミ)、西山マルセーロ(ニシヤマ マルセーロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(集中講義)
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	この講義では、博物館の調査研究活動の意義や方法について理解し、資料の収集・整理・保存と管理および展示に関する知識や技術の習得を図ることを目的とします。そのために具体的な事例として、竹中大工道具館および小磯記念美術館での講義を行います。
到達目標	博物館資料および博物館の活動について一定の知見を得ること。
講義方法	配付資料およびスライドなどを用いた講義を実施します。 前期期間中は大学での通常講義、博物館での現地講義となります。
準備学習	指定する教科書や参考文献を熟読すること。
成績評価	平常点およびレポート
講義構成	前期期間中の講義と夏休み中の集中講義とを組み合わせた講義構成となります。 講義日程については、講義中に指示します。 週間講義 1: 博物館資料とは何か 2: 資料の収集 3: 資料の保管と環境 4: 資料の研究 5: 資料の公開・展示 集中講義 竹中大工道具館 小磯記念美術館 (講義構成は変更することがあります)
教科書	最初の講義で指示します。
参考書・資料	講義中に指示します
講義関連事項	博物館概論(2年次履修)、博物館学Ⅱ(3年次履修)
担当者から一言	博物館学芸員養成課程の必修科目です。通常講義も集中講義も欠席しないようにしてください。

授業コード	15R21		
授業科目名	<b>博物館学Ⅱ(A)(集中)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、三木美裕(ミキ ヨシヒロ)、福島正和(フクシマ マサカズ)、木村朱晶(キムラ スアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修す		

	ること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」
オフィスアワー	木曜日12:20～12:50 佐藤研究室(10号館5階)

講義の内容	まず、ミュージアムが毎日どのように運営されているのかを学びます。 次に、ミュージアムの特性を生かした教育普及事業の必要性について考えます。実際にどのようなプログラムを開発できるか、ギャラリーの中で各自が考えます。以上を通して、ミュージアムが来館者に対して持つ様々な可能性を追求します。
到達目標	博物館の運営や学芸員の仕事について理解する
講義方法	3日間の集中講義中はギャラリーでの実践が中心。体を動かしながら、ミュージアム運営の仕組みを理解できるよう試みます。
準備学習	指定された教科書を熟読すること
成績評価	(a)集中講義前に提出する事前レポート、(b)集中講義期間の出席および講義への参加態度、(c)集中講義後に提出する事後レポートで評価する。レポートの課題や到達目標についてはガイダンスおよび講義中に指示を行う。
講義構成	ミュージアム内でのセミナー室での小講義と、グループに分かれてギャラリーでの観察を行います。この過程で各自の課題を見つけ出し、工夫をこらして問題点を解決する方策を探ります。3日間それを繰り返し、最終日には各自の発表を行います。
教科書	三木美裕『キュレーターからの手紙』
参考書・資料	講義中に指示します。
講義関連事項	博物館概論・博物館学Ⅰもあわせて受講してください。

担当者から一言	受講に際しては、3日間フルに参加されることが鍵になります。
その他	・6月下旬に受講のためのガイダンスを予定しています。 ・受講に関するガイダンスや、講義日程等、連絡事項や変更点については必要に応じて掲示をします。掲示の見落としのないように注意してください。

授業コード	15R31		
授業科目名	<b>博物館実習(A)(集中)</b>		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、出口晶子(デグチ アキコ)、東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	佐藤(木曜日昼休み)		

講義の内容	博物館学芸員資格を取得するための仕上げとして、学外の博物館で1週間前後の実習をうけます。
到達目標	学芸員の実務を理解する。
講義方法	ガイダンスで指示します。
準備学習	ガイダンスで指示します。
成績評価	博物館実習の評価および報告をもとに成績を評価します。
講義構成	1. ガイダンス 2. 事前指導 3. 実習 4. 事後指導
教科書	なし
参考書・資料	なし
講義関連事項	博物館概論・博物館学Ⅰ・Ⅱ

担当者から一言	ガイダンスに必ず参加してください。日程など掲示の見落としのないように注意してください。
---------	---------------------------------------------

授業コード	15010		
授業科目名	阪神文化論I(阪神文化論)(後)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
講義の内容	<p>本年度の阪神文化論は、朝日新聞社との連携講座として開講する。</p> <p>われわれが、自ら場所を移動することなく、日本、世界各地の出来事を知ることができるのは、新聞やテレビ、インターネットといったメディアのおかげであらう。その意味で、メディアはわれわれの「現実・リアリティ」を作っている側面がある。講義では、新聞メディアの最前線で仕事をしている新聞記者や報道カメラマン、それらを記事として紙面を構成・編集する立場の人たちを毎回講師として招き、「リアリティとは何か。それはどこにあるのか」をテーマに、われわれの新聞記事を読み解く力を養う。それゆえに、講義の射程は通常の「阪神文化」の対象を大きく超えることが予想される。了承いただきたい。</p>		
到達目標	新聞記事を批判的に読み解き、「リアリティ」の所在を自分なりにつかんだうえで、記事の背景をも考慮に入れて「出来事」を考えられるようになる。		
講義方法	朝日新聞社の記者やカメラマン、編集担当者らによる連続講義の形をとる。毎回の講義については、講義担当者である井野瀬が、朝日新聞編集局長補佐・草川誠氏とともに、それぞれの話について「リアリティ」をキーワードにして論点を明らかにしながら進めていく。		
準備学習	各講義と関連する朝日新聞の記事を必ず読み、そこに描かれた「リアリティ」の中身について、自分なりの考えをまとめておく。それ以外にも、気になる記事については、なぜ気になったのかの理由を含めてメモをつけて整理するために、Myスクラップ・ブックを作ってほしい。		
成績評価	各講義の最後に、出欠確認を兼ねて、その講義で学んだ内容をリアクション・ペーパーの形で提出してもらい、それを総合的に評価する。必要に応じて、それ以外にもレポート提出を求めることもある。いずれにしても、各講師がそれぞれのリアクション・ペーパーに与える評価を総合して成績をつけることにする。		
講義構成	<p>9月21日 オリエンテーション(1)——メディアが伝える「リアリティ」を読み解くために(担当・井野瀬)</p> <p>9月28日 オリエンテーション(2)——新聞メディアと「リアリティ」の関係性 (担当・朝日新聞大阪本社・編集局長補佐 草川誠氏)</p> <p>10月5日 新聞記事のなかのリアリティ(1)</p> <p>10月12日 新聞記事のなかのリアリティ(2)</p> <p>10月19日 新聞記事のなかのリアリティ(3)</p> <p>10月26日 新聞記事のなかのリアリティ(4)</p> <p>11月2日 報道写真のなかのリアリティ(1)</p> <p>11月9日 報道写真のなかのリアリティ(2)</p> <p>11月16日 報道写真のなかのリアリティ(3)</p> <p>11月30日 報道写真のなかのリアリティ(4)</p> <p>12月7日 新聞編集とリアリティ(1)</p> <p>12月14日 新聞編集とリアリティ(2)</p> <p>12月21日 新聞編集とリアリティ(3)</p> <p>1月4日 新聞編集とリアリティ(4)</p> <p>1月11日 まとめ (担当者の都合により、内容の一部変更の可能性もある。あらかじめご了承ください)</p>		
教科書	講義の前、あるいは講義の中で、適宜指示するが、朝日新聞を毎日読んで、気になる記事をチェックしてほしい。		
参考書・資料	講義のなかで適宜指示する。		
講義関連事項	メディア、マスコミ、メディア・リテラシーなどのキーワードと関わる講義を受講していることが望ましい。		
担当者から一言	朝日新聞社との連携講座は、文学部初の試みです。担当者としてもワクワクしています。事件や出来事、諸問題の最前線でその「リアリティ」を伝えようとする彼ら、新聞人の送る言葉や写真、編集手法に耳をすませるとともに、現場に立つ者ならではの臨場感を、おおいに楽しんでください。あなたがたの日常の1コマが、そのなかの「リアリティ」に対する見方が、大きく変わることを期待しています！		

授業コード	15011		
授業科目名	阪神文化論II(後)		
担当者名	東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)、鎌谷かおる(カマタニカオル)、木場貴俊(キバ タカトシ)、河野未央(コウノ ミオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	木曜日12:20~14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	<p>本講義は江戸時代から幕末維新期の阪神間の文化的諸相について、学内講義とフィールドワークで学ぶ科目です。</p> <p>講義では、いくつかの場所を設定し、その場所に視点を据えて阪神間を見ることにより、地域としての阪神間が持つ広がりやつながりについて論じていきたいと思えます。</p> <p>阪神間では非常に多くの人とモノの動き、多くの情報が行き交っていました。</p> <p>学内講義で、物流のネットワークや人的ネットワークを背景に阪神間という地域とそこで生み出される文化について理解をします。加えて、フィールドワークで現地調査を行うことにより、より理解を深めることを目的とします。</p> <p>なお、近代以降の阪神間の文化を「モダニズム」をキーワードとして学ぶ科目(阪神文化論I)もある。あわせて受講することにより、より深く阪神間の文化について学ぶことができます。</p>
到達目標	江戸時代の阪神間の文化について理解すること。 フィールドワークの方法を会得すること。
講義方法	学内講義は通常の講義形式で行います(リレー講義)。 学外講義はフィールドワークとして現地調査を行います(東谷その他)。
準備学習	講義中に指示する。
成績評価	・出席点+講義内でのミニレポート(40点) ・後期末のレポート(60点)
講義構成	<p>【学内講義】(火曜4限)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス(鳴海)</li> <li>・兵庫津と海運ネットワーク(河野)</li> <li>・阪神間の酒造と文化的ネットワーク(鎌谷)</li> <li>・開港と神戸の遊廓(人見)</li> <li>・阪神間の怪異文化(木場)</li> <li>・まとめ(東谷)</li> </ul> <p>* 講義順と日程は初回に指示します</p> <p>【学外講義】(集中講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内講義で取り上げた場所でのフィールドワーク</li> </ul> <p>* 学外講義の日程など詳細は講義中に指示します。</p>
教科書	特に指定しない。 必要に応じてプリントを配布します。
参考書・資料	講義中に指示する。
講義関連事項	阪神文化論I(前期)
担当者から一言	講義で学んだことを踏まえた現地調査を行う科目です。 講義で聞いた内容を自分の目で確かめ、阪神間の文化を理解してほしいと思えます。
その他	学内講義(火曜4限)と学外講義(集中講義)で構成します。 学外講義の日程については講義の際に指示します。

授業コード	15070		
授業科目名	比較文化史I(前)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		
講義の内容	<p>「紙と書物の文化史」 東アジアで生まれた紙が、イスラーム地域を通じてヨーロッパに伝播し、それぞれの地域に特色のある書物文化を育んだ。この講義では、紙、書物(写本)、口承とリテラシー、知識伝達などのキーワードから、各地域の文化史を説明する。特に、今まであまり論じられることのなかった歴史的イスラーム地域の文化史に多くの時間を割く。</p>		
到達目標	紙の発明や伝播に関する従来学説がどのような根拠に基づいてとなえられたのか、紙・書物の登場によって知的伝達のあり方はどのように変容したか、印刷技術の発達は人々の意識をどのように変化させたかなど、紙と書物に関する諸問題への理解を深める。		
講義方法	プリントと板書を併用した講義形式。適宜、映画などの映像資料を用いる。		
準備学習	日本史・世界史において、紙や書物に関してどのような事件・現象が生じたか、分かる範囲でリストアップしておくこと。		
成績評価	平常点(出席点)と学期末テスト(もしくはレポート)の成績を総合して評価する。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 紙の生まれる前</li> <li>3. 声の文化</li> <li>4. クルアーンと書物</li> <li>5. 紙の誕生</li> <li>6. 紙の伝播</li> <li>7. イスラーム地域における書物</li> <li>8. イスラーム地域の知識伝達</li> <li>9. イスラーム地域の写本</li> <li>10. イスラーム地域の書道と細密画</li> <li>11. 中世ヨーロッパの写本</li> <li>12. 活版印刷の誕生</li> <li>13. 印刷術の伝播と近代</li> <li>14. まとめ</li> </ol>		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	講義中に指示する。		

授業コード	15071		
授業科目名	<b>比較文化史Ⅱ(前)</b>		
担当者名	中田美絵(ナカタ ミエ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
講義の内容	<p>テーマ: アジア地域における仏教の展開 インドに発祥した仏教は、中央アジア・東南アジア・中国・朝鮮・日本などの広範囲の地域で文化・社会・政治など様々な分野に大きな影響を与えた。時には、歴史的・文化的背景の異なる地域・社会に流入して文化衝突を引き起こしたり、当初の思想とは違った形で受容されることも多い。本講義では、仏教が各地域に受容されてからどういった変遷を遂げたのか、また、社会や政治にどのように影響を与えていったのかを、中国・唐代の時期を軸に据え、他地域との比較も行ないながら解説したい。</p>		
到達目標	仏教が歴史上果たしてきた役割を、政治・経済・文化などの諸方面から具体例を挙げて説明することが出来る。		
講義方法	板書と配布プリントを併用した講義形式。適宜、写真なども用いる。		
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講前に、高校の世界史の教科書などで唐代までの中国史の復習をしておくことが望ましい。</li> <li>・講義中に紹介した書籍や、配布する参考プリントなどは積極的に読むこと。</li> </ul>		
成績評価	出席回数と期末テストにより評価する。詳細については初回に説明する。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 導入</li> <li>(2) 仏教と政治 <ul style="list-style-type: none"> <li>・統治手段としての仏教思想</li> <li>・暴力装置としての仏教</li> </ul> </li> </ol>		

	(3)五臺山文殊信仰の展開 ・仏教聖地成立までの過程 ・五臺山文殊信仰と王権 ・東アジア仏教圏における五臺山文殊信仰 (4)混淆する仏教 ・ゾロアスター教と仏教 ・ネストリウス派キリスト教と仏教 (5)法門寺と仏舎利信仰
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に適宜紹介する。また、プリントを適宜配布する。

授業コード	15039		
授業科目名	<b>文化交流史(文化交流史I)(前)</b>		
担当者名	和田郁子(ワダ イクコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	南アジア系の移民は、現在では世界各地に見られる。南アジア系の人々の海外進出や移住には長い歴史があるが、移民(移住する人々)の動きは19世紀のイギリス植民地体制下で大きく展開した。本講義では、海上での人間の活動が古くから活発に行われていた、インド洋海域における南アジア系移民に注目し、前近代から近代に至る彼らの移動の背景や活動、移住先の社会との関係などについて取り上げる。		
到達目標	移民の歴史を通して、広域にわたる人間の移動/移住が、人々の出身地、移住先双方の社会や文化にどのような影響を与えるのかについて考え、多様な背景を持つ人々を包含する社会のあり方について理解を深める。		
講義方法	板書を基本とする講義形式で行う。絵画・映像資料も適宜利用する。		
準備学習	世界地理についての基本的な知識を身につけておくこと。特に、インド洋沿岸(東アフリカ～ユーラシア大陸の南部～東南アジア)の各国の名称や位置については必須。また、毎回の授業時には地図(高等学校「地理」教材用の地図帳など)を持参し、適宜参照することが望ましい。		
成績評価	原則として期末試験により評価する。 ただし、10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。		
講義構成	第1回:オリエンテーション 第2回～第3回:インド洋と南アジアの地理的特徴と人間の活動 第4回～第8回:前近代インド洋海域のさまざまな商人集団 第9回～第14回:南アジアの植民地化と人間の移動 第15回:試験		
教科書	教科書は使用しない。		
参考書・資料	参考文献については講義の中で紹介する。参考資料も適宜配布する。		
講義関連事項	講義後、出席確認を兼ねて感想・質問票の提出を求めるので、積極的に記入して下さい。また、欠席した際などのノートの不足分は各自で責任を持って補うこと。		
その他	携帯電話は電源をオフにしておくこと。また、私語や授業途中の出入など他の受講生の迷惑になる行為は禁じます。		

授業コード	15069		
授業科目名	<b>文化交流史II(後)</b>		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	「13世紀世界システムの発展と崩壊」
-------	--------------------

	日本で言えば鎌倉時代にあたる13世紀、中央ユーラシアに起こったモンゴル帝国が広い領域を支配し、それによりアジア・アフリカ・ヨーロッパの隅々まで覆う一当然日本をも含みこむ一ネットワークが出現した。それ以前は互いに無関係な歴史を展開していた各地域が、この時代にはじめて一つのまとまった歴史世界として結合したとする研究者もいるほどである。 この講義ではそのような立場を踏まえ、この時代を、大航海時代や資本主義世界システムに先立つ「13世紀世界システム」の時代ととらえて説明する。
到達目標	13世紀世界システムとはどのような条件の下で可能となったのか、現代の世界システムとどのような相違があるのかを把握する。また、3大陸の結節点を占めるイスラーム地域の問題を中心にするつつ、ヨーロッパや南、東南、東アジア、および日本にいたる広い地域間交流について考察することで、それぞれの地域の独自性・共通性を理解する。
講義方法	プリントと板書を併用した講義形式。適宜、映像資料を用いる。
準備学習	自分が関心を持つ地域やテーマに関して、それぞれの13世紀とはどのような時代であったかを調べ、まとめておいてもらいたい。 (例)13世紀の日本社会、13世紀のヨーロッパ建築、等。
成績評価	平常点(出席点)と、学期末テスト(もしくはレポート)の成績を総合して評価する。
講義構成	1. イントロダクション 2. 世界史のはじまり13世紀 3. シルクロードとアッパース・ネットワーク 4. モンゴル帝国の拡大 5. モンゴル帝国の発展 6. 東アジアの13世紀 7. インド洋海域世界 8. 紅海とペルシア湾 9. 交易離散共同体 10. 地中海とヨーロッパ 11. マルコ・ポーロの世界 12. イブン・バットゥータの世界 13. 世界システムの崩壊 14. その後の世界システム
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15038		
授業科目名	<b>文化地理学I(後)</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	地球儀を頭にいれて、海を軸に、人類進化、人類移動、民族移動、文化移動、文化交流を考える。 みずから移動しながら、立ったその場所からどんな世界がみえるのか、パースペクテヴと位置について、考える。 ナショナル・ジェオグラフィックな世界をとりあげる。
到達目標	頭に地図をつくること。
講義方法	ビデオ映像やスライドをまじえ、講義。さらに近隣の巡検に出かけることもする。
準備学習	移動について、いつも注意深く考えること。そして、移動を楽しむこと。
成績評価	出席と小レポート、大レポート等で評価。
講義構成	進化と移動 陸をあるいた移動 海をこえた移動 海・山をこえた人と文化 海をつなぐ移動と文化 ある場所から見えるけしき 時間と空間の旅

	移動するということ
教科書	とくに限定しない。
担当者から一言	海は広いな、大きいな、いつてみたいな、よその国。

授業コード	15060		
授業科目名	<b>文化地理学II (前)</b>		
担当者名	大城直樹(オオシロ ナオキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	(各々2~3回かけて講義していく。ただし以下は予定であり変更する場合もある。) <ul style="list-style-type: none"> <li>・1970年代以後の文化地理学の流れ</li> <li>・学説史的コンテキストおよび隣接分野の動向と時代的・社会的コンテキスト</li> <li>・トゥアン(Yi-Fu Tuan):「トポフィリア」と「場所」概念</li> <li>・レルフ(Edward Relph):「場所感覚」と風景の見方</li> <li>・ベルク(Augustin Berque):和辻「風土論」との折衝, ハイデッガーの解釈学的現象学の継承</li> <li>・いわゆる「文化論的転回 cultural turn」について</li> </ul>		
到達目標	文化地理学的な立場から, どのようにして人間と環境(空間・風景・場所)の関係について考えることが出来るか, その一端を紹介する。 はじめに, 1970年代以降の文化地理学の学説史を地理学内外のコンテキストに目配せしながら説明し, その後, 具体的な概念や思考のあり方について考えていく。トゥアンやレルフ, またその批判的継承者としてベルクの所説, また文化論的転回およびその後の所説などがトピックとなるはずである。		
講義方法	通常の講義形態。ただし受講生の人数によって演習形式を組み合わせることもありうる。		
準備学習	授業中に紹介する文献を読んでおくこと。		
成績評価	期末テスト(70%) + 授業時のレポート(30%)		
講義構成	通常の講義形態。ただし受講生の人数によって演習形式を組み合わせることもありうる。		
教科書	特に使用しない。だが, 読むべき文献は多い。これについては, 講義時にリストを配布する。		

授業コード	15037		
授業科目名	<b>文明の諸問題II (前)</b>		
担当者名	川合清隆(カワイ キヨタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日、14時40分~16時		

講義の内容	ヨーロッパ文明を特徴付けるキリスト教がテーマ。16世紀初頭の宗教改革から、18世紀末のフランス革命までの時期を対象に、フランスにおけるカトリックとプロテスタントの抗争に焦点を当てて講義する。		
到達目標	宗教問題の正確な理解。		
講義方法	講義内容のレジュメのプリントを毎回配布する。通常の口頭による講義		
準備学習	適宜指示します。		
成績評価	期末の筆記試験による。		
講義構成	「フランスにおけるカトリックとプロテスタント」 第1章 カラス事件とヴォルテールの裁判闘争 1 カラス事件(1762年)の概要 2 カラスの裁判と処刑 3 ヴォルテールの裁判闘争 第2章 宗教改革—フランスとジュネーヴ 1 フランスの宗教改革の始まり		

	2 カトリックとプロテスタントの違い 3 カルヴァンとジュネーヴの宗教改革 第3章 宗教戦争とナントの勅令 1 宗教戦争への序曲 2 宗教戦争とナントの勅令 第4章 啓蒙思想とキリスト教 1 啓蒙思想と『百科全書』 2 理神論とは何か 3 神の存在証明 4 理神論者と来世信仰—ヴォルテールとルソーの違い
教科書	必要に応じて指示します。

授業コード	15021		
授業科目名	<b>民俗学の諸問題</b>		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	人々の暮らしにみる伝承のあり方について、文字と口承、生業、芸能、人生儀礼、旅と見聞、民俗文化の遺産化などをめぐって考える。現在学、応用の学としての日本民俗学の視点から、現代のわれわれの暮らしのありかたを考える。
到達目標	調べごとでおおわらず、当事者としての経験につなげること
講義方法	授業は、講義と討論をまじえながら進めるので、受講生の積極的な姿勢を求める。観察から洞察する力、分析から表現する力を鍛えてほしい。
準備学習	みずから当事者として経験していることを、ほりさげて考えるくせをつけよう。
成績評価	レポート、試験等により総合的に評価。
講義構成	1 民俗学のまなざし 現在学、応用の学としての民俗学 2 伝承のあり方ととらえ方 3 民俗学と実践性 未来創造に資するか？ 4 民俗学の自然観 山に生かされる、離島であること、都市と田舎 5 旅と民俗 お参り、遠野物語と遠野観光 6 現代社会と民俗 民俗芸能、わがふるさと、わが町という視点、町並み保存、民俗文化財の所在、観光と民俗 7 モノのゆくえ モノは語る 8 学校と民俗 都市伝説、課外活動、祭り、山登り
教科書	限定しない。
参考書・資料	プリントを配布。読むべき図書などは、適宜指示する。随時映像(スライド・ビデオ)や音楽も使う。
講義関連事項	地理学・民俗学資料研究、民俗文化研究
担当者から一言	旅をして、風景を経験し、いまを生きる同時代人とあちこちで出会い、対話を重ねてみてください。古老の話にこだわる必要はありません。若者のその眼で見たまま、感じたままがよいのです。

授業コード	15035
-------	-------

授業科目名	民俗文化研究I(後)		
担当者名	大江 篤(オオエ アツシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	この講義では、祭りや民俗芸能についての理解を深めるとともに、フィールドワークの方法や資料分析のための方法論を習得することを目標とする。 日本人は、季節ごとに祭りをを行い、神を慰め、祀る人々が楽しむ場で民俗芸能を発達させてきた。ここでは、兵庫県を中心に各地の祭礼と民俗芸能を取り上げ、その歴史と現在を紹介するとともに、文化資源としての価値を検証していきたい。
到達目標	民俗文化を研究する上での課題を理解するとともに研究の方法を身につけることを目標とする。
講義方法	ビデオなどで祭礼・民俗芸能を紹介しながら、講義形式で実施する。毎時間プリントを配布する。
準備学習	民俗調査報告書や自治体史を読み、参与観察調査を実施する祭礼を事前に決めておくこと。
成績評価	出席(正当な理由無く欠席した場合は減点する) 小レポート(フィールドワークによるもの)30% 期末レポート40%
講義構成	1、ガイダンス 2、「民俗文化」とは？ 3、祭りの源流-古代人と神々- 4、神社の成立 5、国家の祭り-伊勢神宮の鏡- 6、都の祭り-賀茂祭- 7、都市の祭り-ヤマ・ホコ・ダシ- 8、海の祭り-瀬戸内の権伝馬 9、村の祭りや芸能-田楽- 10、村の祭りや芸能-一ツ物- 11、山の祭り-三信遠の霜月祭り- 12、民俗芸能の伝播-風流太鼓踊り- 13、無形民俗文化財としての祭り 14、民俗芸能の創造的活用 15、講義のまとめ
教科書	使用しない。プリントを使用。
参考書・資料	講義のなかで適宜紹介する。
担当者から一言	祭りや民俗芸能の事例をできるだけ、映像で紹介するが、現場の臨場感にまさる体験はない。したがって、講義期間中の祭礼を適宜紹介していくので、是非、現場でフィールドワークをしてほしい。

授業コード	15036		
授業科目名	民俗文化研究II(前)		
担当者名	伊達仁美(ダテ ヒトミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	民俗文化財、いわゆる生活資料の保存修復という分野において、その技術とともに何をどう残すかを講義する。また、それらを構成している材質やその特徴、それに発生する異常に対し、保存修復方法や予防処置、使用資材等を紹介する。さらに生活資料の活用事例として学校教育や観光、高齢者福祉の中で使用されていることについても触れ、それらから資料保存について考える。 なお、休日に学外の資料館等で現地見学を行ない、資料の収集や保存の実際を学習する。ただし、日程については、原則的に全員が参加可能な日とする。
到達目標	本講義を通じて、民俗文化財の保存修復を認識し、学生の視点から自分達がかかわることができることを見出してほしい。
講義方法	ビデオ、スライドで事例紹介し、授業で必要なプリントは、その都度配布します。授業は、一方的なものではなく、受講生との意見交換なども行うため、積極的な姿勢でのぞんで下さい。
準備学習	地元や旅行先で生活資料や民俗文化財などが展示している施設を見学し、それらに対する基礎知識を持って受講して下さい。

成績評価	試験は行ないませんが、出席(40%)、授業への参加度(20%)、小レポート(20%)、期末レポート(20%)等から総合的に評価します。
講義構成	1～2. 各自の報告に基づいて、民俗文化財の保存を考える 3. 民俗文化財の現状 4. 民俗文化財の保存修復に関する調査方法 5. 現地見学 6～7. 民俗文化財の保存修復方法 8. 災害と民俗文化財 9. 地域住民参加型保存修復 10. 学校教育と民俗文化財 11. 観光と民俗文化財 12. 高齢者福祉と民俗文化財 13. 総括
教科書	使用しませんが、その都度参考図書を紹介しします。
講義関連事項	文化財保存、あらゆる分野の民俗学
担当者から一言	民俗文化財は、生活のすべてに関係するものです。それらを保存修復ならびに活用をするわけですから、色々な知識が必要となります。常に資料の背景にある情報に興味を持ってください。また、民俗文化財を後世に伝えるために、授業を通じて自分自身ができることを考えて下さい。

授業コード	15002		
授業科目名	<b>歴史学・地理学基礎論(後)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)、出口晶子(デグチ アキコ)、東谷 智(ヒガシタニ サトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	木曜昼(出口) 月曜・木曜昼休み(稲田)		

講義の内容	「ヒトとモノの移動・交流」 今年度はこのテーマをめぐり、日本史・東洋史・民俗地理学の各領域からアプローチします。現代は国際化の時代といわれますが、そもそも人類は孤立して存続してきたわけではありません。よく知られているシルクロードの東西交易や遣唐使を通しての文化交流はもとより、たびたび起こった戦争も交流の一形態です。この講義では、大量輸送が始まる前の交流の姿をさまざまな面から考察します。
到達目標	この講義は個々の事象についての知識を覚えることにあるものではありません。一つのテーマにもさまざまなアプローチの仕方があるということを知ることが目標です。歴史学、地理学の方法を学びながらその領野を越境すること、それがねらいです。
講義方法	配付資料やスライドを用いて行われる、3名の教員によるリレー式の講義です。コメントや小論文の提出が求められる場合があります。
準備学習	具体的には講義中に指示しますが、講義中に興味を持ったトピックについて自分なりの感想や疑問点などを整理してみてください。
成績評価	出席点と平常点、ならびに各分担者ごとにレポートもしくは試験を実施し、総合的に評価します。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第8回 ゼミ紹介 第15回 まとめ  具体的な日程はオリエンテーションのさいにお知らせしますが、担当者はそれぞれ以下のような内容で講義します。  ◎「ユーラシアの交通路」(稲田) 次のようなトピックをとりあげる予定にしています。 (1)歴史における空間と時間 (2)ユーラシアの交通路から何を読みとるか？ (3)蜀への道 (4)16世紀

	<p>◎「今日ただいま、旅の途中」(出口) 現代に生きるわれわれの旅について、とりあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅を欲する</li> <li>・旅と物語</li> <li>・旅の空間で見ているものはなに？</li> </ul> <p>◎「人とモノの移動」(東谷) 江戸時代の日本を取り上げ、「移動」について考えていきたい。 下記の内容を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅と観光</li> <li>・情報の流通</li> <li>・都市と周縁部</li> </ul>
教科書	とくに使用しません。
参考書・資料	講義中に指示します。

授業コード	15014		
授業科目名	<b>歴史と自然(前)</b>		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日12:20~13:00 木曜日12:20~13:00		

講義の内容	<p>「中国史における人と自然」 自然は人間の営みにどのような影響を与えてきたのか。逆に人類は自然環境にどのように働きかけてきたのか。自然環境が一方的に人の性格をつくるのでもなければ、人の手の加わっていない「自然」なるものもほとんどない。この講義では、こうした人と自然環境とのかわりの結果を示す指標として人口の動向に着目しつつ、中国について考察する。</p>
到達目標	東アジアの風土とその変遷の大筋をいくつかの例をあげて説明できる。
講義方法	講義形式による。
準備学習	日頃から東アジアの地図に親しんでおくこと。
成績評価	原則として学期末試験による。
講義構成	<p>序章はじめに(第1回) 第1章東アジアの生態系(第2~3回) 第2章気候変動の歴史とマクロ人口動向(第4~5回) 第3章黄土と関中平野の開発(第6~8回) 第4章 中国史における北と南(第9回) 第5章華中・南の森と山地開発(第10~12回) 第6章自然とミクロ人口動向(第13~14回) 終章おわりに(第15回)</p>
教科書	指定しない。
参考書・資料	講義中に随時紹介する。また、適宜プリントを配布する。

授業コード	15067
授業科目名	<b>歴史と自然II(後)</b>
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	「東南アジアの歴史と自然」 熱帯に位置する東南アジアでは一般に自然の力が旺盛であり、その制御は難しい。また、東南アジア諸国の多くは発展途上国である。そのため、この地域、特に農村部では現在も自然と深い結びつきを持った暮らしを見ることができる。また、この地域は港市国家の栄えた時代、ヨーロッパの植民地となった時代、戦後の東西冷戦下の時代、現在のグローバリゼーションの時代というように、古くから国際社会の影響を大きく受け、変容してきた。本講義ではこうした歴史の中で、東南アジアの人々が自然との関わり方をどう変化させてきたのか、また、こうした自然と歴史の中で育まれた東南アジア社会の特徴は何かということを考えてい。
到達目標	東南アジアの自然と社会の特徴を日本などとも比較しつつ理解すること。また、現在の発展途上国の農村が抱える問題について基礎的な理解を得ること。
講義方法	板書と配布プリントが中心であるが、スライドやビデオなども用いる。
準備学習	「地理学の諸問題」を受講していることが望ましいですが、その限りではありません。授業で紹介する参考図書を読んでみて下さい。
成績評価	定期試験(70%)、出席(15%)、レポート(15%)
講義構成	(1)農業インボリューション論について (2)モラル・エコノミー論について (3)デルタの自然と社会—紅河デルタを例に (4)東南アジアの稲作儀礼 (5)人口からみた東南アジアの特徴 (6)プランテーションと農民農業 (7)国家の中での農村社会—移住政策を中心に (8)グローバリゼーションと環境問題
教科書	特に指定しない。ただし、中高で用いたのものでいいので地図帳を持参すること。
参考書・資料	京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア—風土・生態・環境』弘文堂、1997。 斎藤照子『東南アジアの農村社会(世界史リブレット84)』山川出版社、2008。

授業コード	15013		
授業科目名	<b>歴史と思想(歴史と思想I)(後)</b>		
担当者名	川合清隆(カワイ キヨタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日 14時40分～16時00分		

講義の内容	18世紀末に起った世界史的事件「フランス大革命」について講義する。フランス革命以前、ヨーロッパは、アンシャン・レジームと呼ばれる封建的旧社会であった。革命は、この旧社会から近代市民社会への移行の画期である。それとともに、王政の国家は変革され、民主主義と国民主権の国家が出現する。この講義を通じて、現代社会の基本的要件である民主主義的統治制度の成り立ちを学習し、民主主義、基本的人権などの思想も学習する。さらに、近代史における革命現象についても理論的説明を試みる。
到達目標	国民国家成立過程の理解。
講義方法	毎回、講義内容のレジュメを配布し、レジュメに基づいて講義する。適宜、板書し、年表も使用する。
準備学習	適宜指示します。
成績評価	期末の筆記試験によって評価する。試験問題は、適語を補い文を完成する形式(50点)と、小論文を書く形式(50点)。毎回ではないが、間歇的に出欠を取り、成績評価の参考とする。
講義構成	第1章 絶対王政の崩壊(1789年5月～10月) 1 三部会の開会(5月5日) 2 三部会から国民議会へ 3 パスチエユ占領(7月12日～14日) 4 封建制廃止決議 5 人権宣言—アメリカ独立宣言との関係 6 ヴェルサイユ行進(10月5～6日)

	<p>第2章 立憲君主制(1789年11月～91年9月)</p> <p>1 フランス革命と明治維新</p> <p>2 財政赤字と教会財産の没収</p> <p>3 教会改革と聖職者民事基本法</p> <p>4 91年憲法の政治体制——立憲君主制</p> <p>[注意]本講義は後期へ続くので、通年で履修するのが望ましい。</p>
教科書	なし
参考書・資料	<p>マチエ著『フランス革命』上・中・下、岩波文庫</p> <p>ソブール著『フランス革命』上・中・下、岩波新書</p> <p>桑原武夫編『フランス革命とナポレオン』、中公文庫、世界の歴史10、</p> <p>柴田三千雄著『フランス革命』、岩波セミナーブック30、</p> <p>トムソン著『ロベスピエールとフランス革命』、岩波新書</p> <p>河野健二著『フランス革命小史』、岩波新書、</p> <p>立川孝一著『フランス革命』、中公新書</p>

授業コード	15012		
授業科目名	<b>歴史と美術(後)</b>		
担当者名	木村重圭(キムラ シゲカズ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	<p>日本文化の歴史の中で、特に日本美術の展開をたどって行きたい。縄文時代から始まり、飛鳥・奈良・平安時代の仏教美術の歴史を展望し、中世から近世では、日本独自の花を咲かせた絵画の分野を概観してもらう。そして、日本美術の流れを学んでもらえればと考えている。</p> <p>尚、毎回スライドを使用し、視覚的にも理解を深めてくれるようにと計画している。</p>
到達目標	<p>日本の美術の歴史の中で、特に著名な人物や作品についての基本的な知識が吸収できる。そのため毎回スライドを用い作品等を視覚的に認識できるよう紹介している。</p> <p>一般的常識として、これ位は知っておいてほしいと考えているので、その位置づけである。</p>
講義方法	講義を60分、残り30分をスライド
準備学習	普段から時間をつくり、博物館や美術館の展覧会、古社寺の文化財などの見学に行くようにしてほしいと望んでいる。
成績評価	出席30%、試験70%
講義構成	<p>1、時代区分、縄文土器と弥生土器</p> <p>2、古墳時代、埴輪と須恵器</p> <p>3、飛鳥・白鳳時代、法隆寺と薬師寺</p> <p>4、天平時代、東大寺・正倉院・興福寺</p> <p>5、天平から平安時代へ、唐招提寺・東寺・平等院</p> <p>6、絵巻物、源氏物語絵巻・信貴山縁起絵巻など</p> <p>7、水墨画、如拙・周文・雪舟など</p> <p>8、桃山時代の絵画、狩野派の画家たち</p> <p>9、桃山時代の巨匠たち、長谷川等伯・海北友松など</p> <p>10、琳派の芸術、俵屋宗達・尾形光琳など</p> <p>11、南蛮美術</p> <p>12、南画(文人画)、池大雅・与謝蕪村など</p> <p>13、洋風画、司馬江漢など</p> <p>14、写生派、円山応挙・呉春など</p> <p>15、風俗画と浮世絵</p>
教科書	なし
参考書・資料	毎回プリントとして資料を配布する。